

「IoT時代のロジスティクス in 2030」
(JILS総研レポート Vol.1)に係る
Webアンケート調査結果

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会
JILS総合研究所

2016年12月

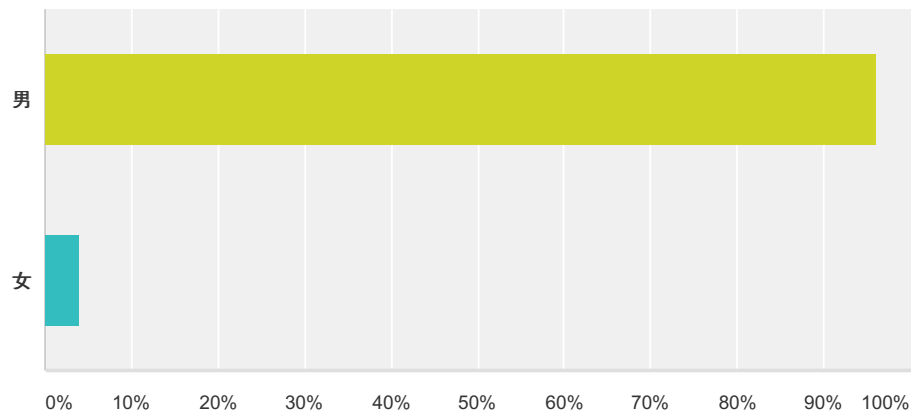
Q1 お名前と電子メールアドレスをご記入ください。

回答: 1,030 スキップ: 47

回答の選択肢	回答数	
お名前（漢字）	100.00%	1,030
電子メールアドレス	99.22%	1,022

Q2 性別について、選択してください。

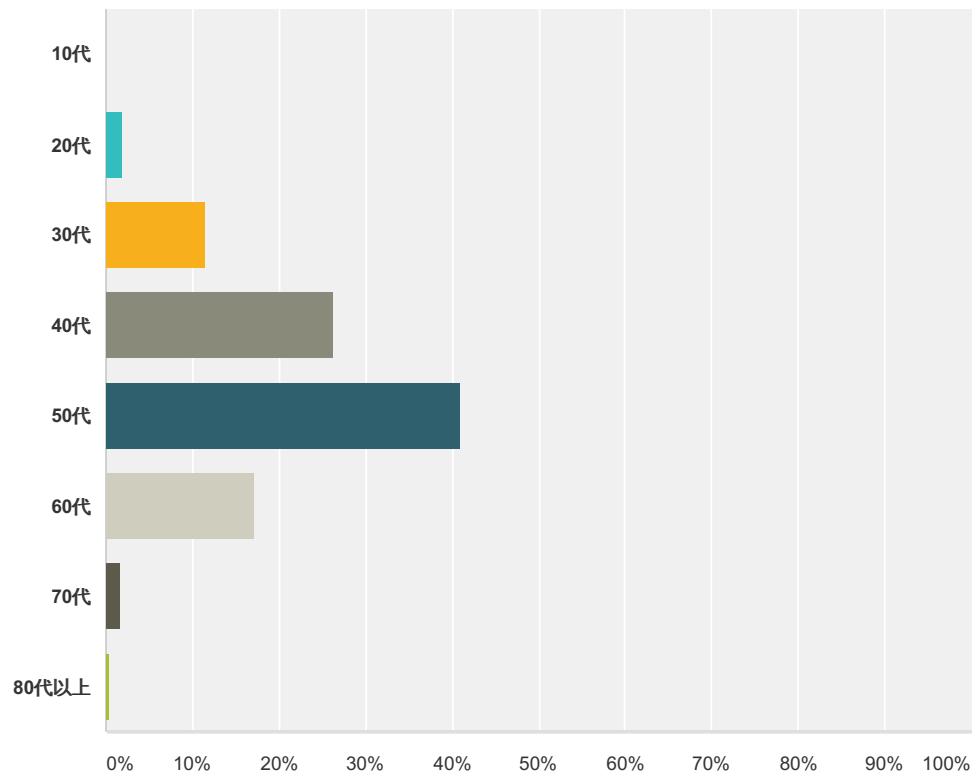
回答: 1,055 スキップ: 22



回答の選択肢	回答数	割合
男	1,013	96.02%
女	42	3.98%
合計	1,055	

Q3 年齢層について、選択してください。

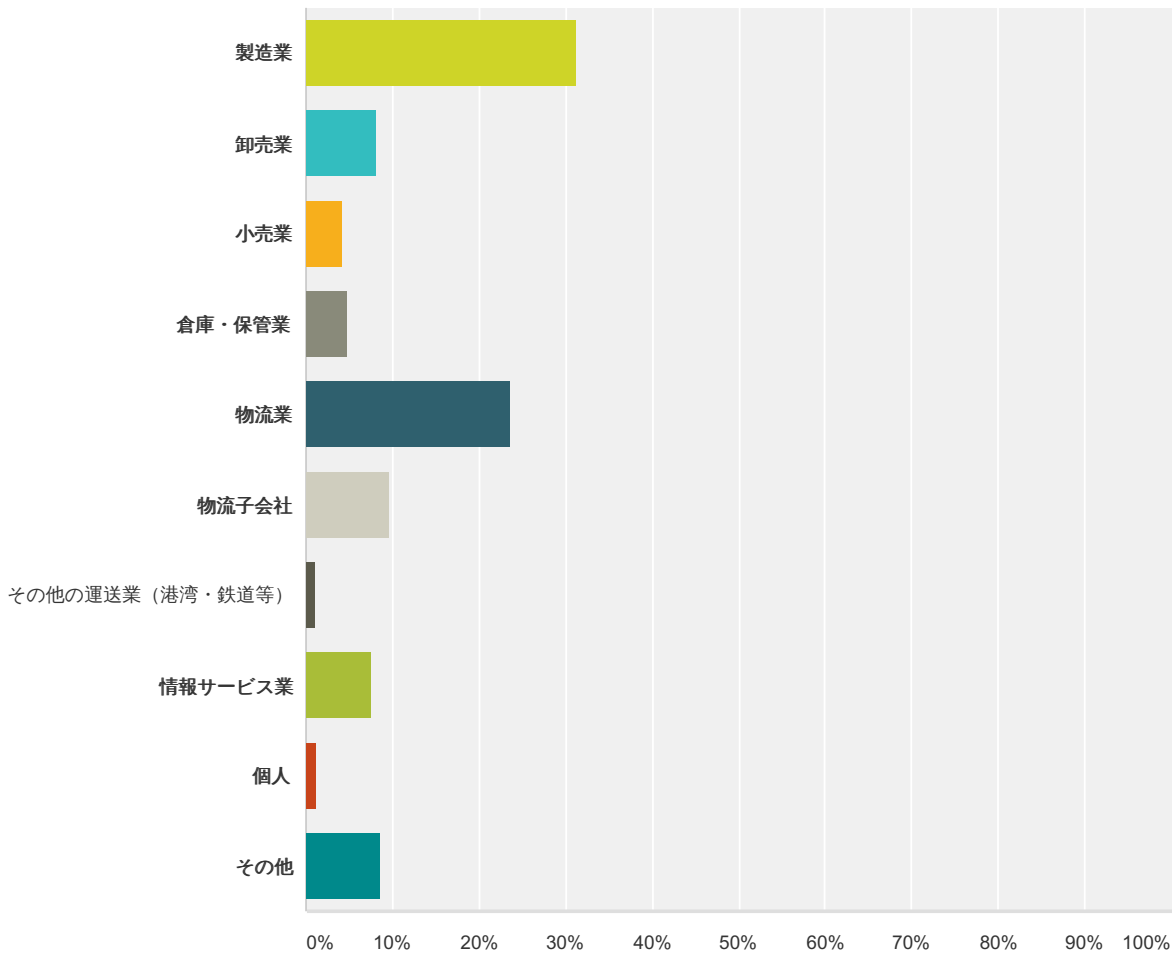
回答: 1,057 スキップ: 20



回答の選択肢	回答数
10代	0.09% 1
20代	1.80% 19
30代	11.54% 122
40代	26.21% 277
50代	40.96% 433
60代	17.22% 182
70代	1.70% 18
80代以上	0.47% 5
合計	1,057

Q4 業種区分について、複数に該当するときは
代表的なもの1つを選択してください。

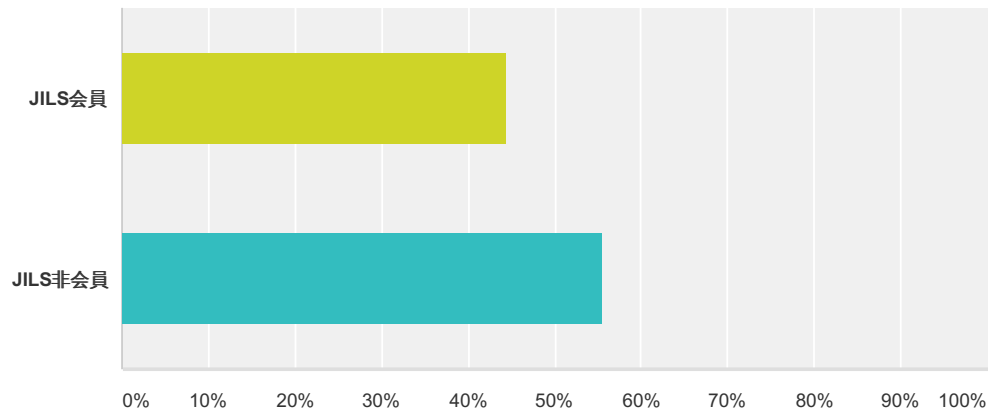
回答: 1,061 スキップ: 16



回答の選択肢	回答数
製造業	332
卸売業	86
小売業	44
倉庫・保管業	50
物流業	251
物流子会社	101
その他の運送業 (港湾・鉄道等)	12
情報サービス業	80
個人	14
その他	91
合計	1,061

Q5 JILS会員の種別について、選択してください。

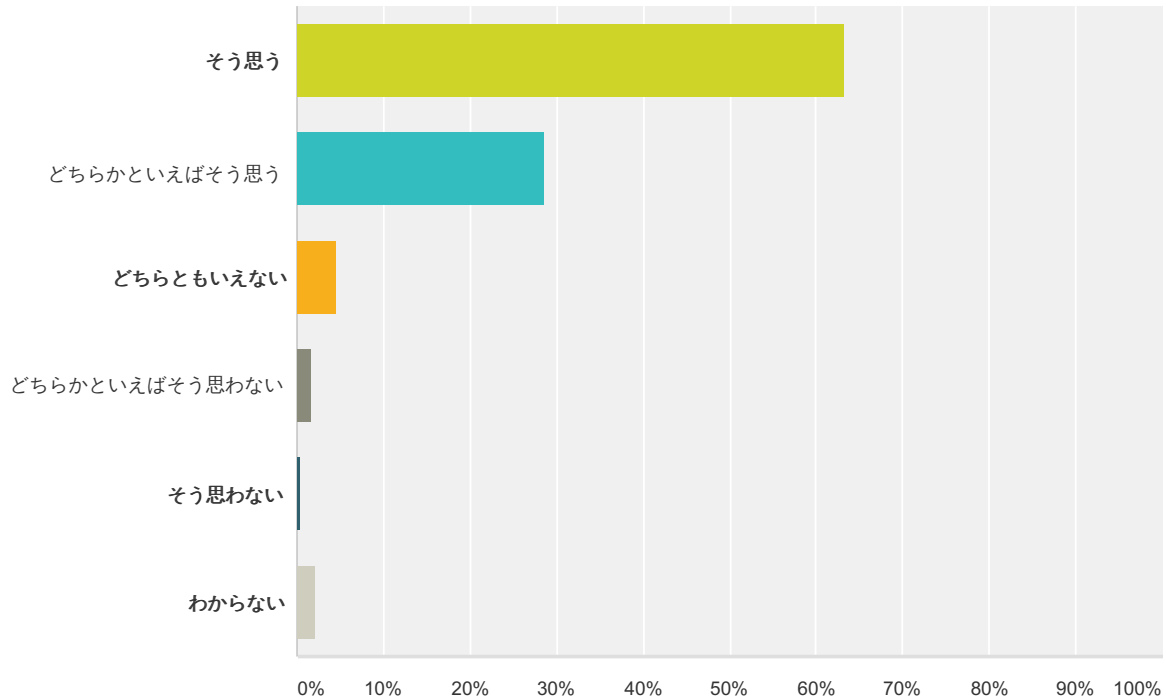
回答: 1,058 スキップ: 19



回答の選択肢	回答数
JILS会員	471
JILS非会員	587
合計	1,058

Q6 現在、日本においても、「モノのインターネット」(Internet of Things : 以下、IoTとい
います)への関心が高まっています。今後、
日本の社会全体にIoTが普及すると思いま
すか。

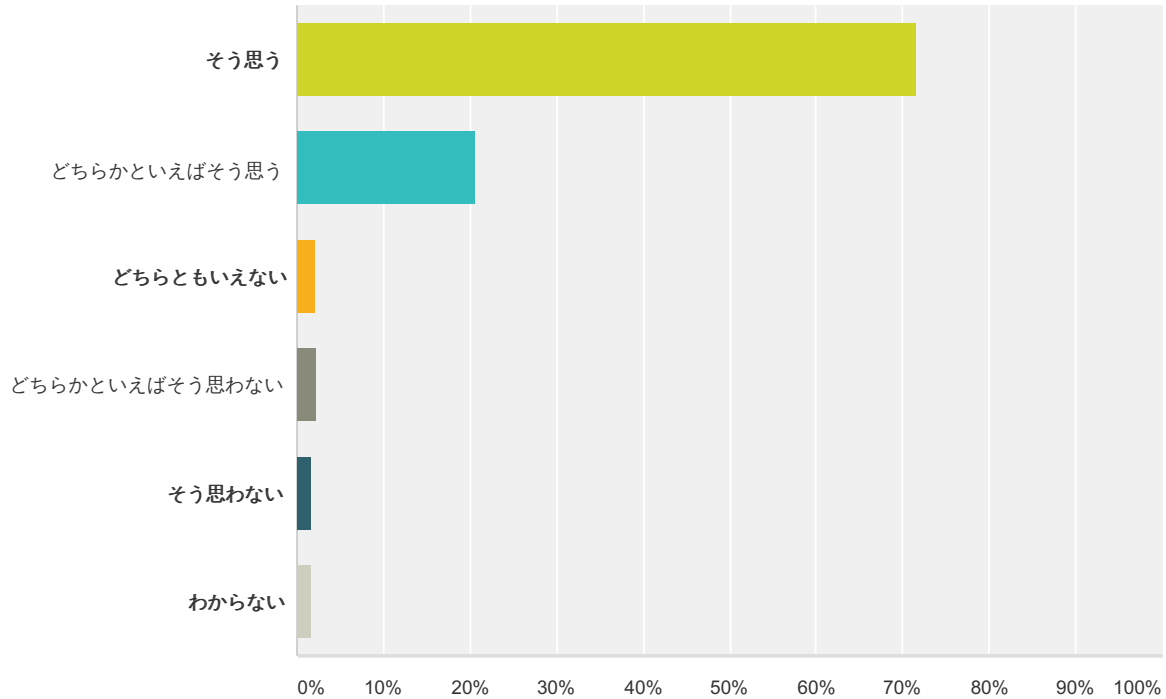
回答: 1,021 スキップ: 56



回答の選択肢	回答数
そう思う	63.17% 645
どちらかといえばそう思う	28.60% 292
どちらともいえない	4.51% 46
どちらかといえばそう思わない	1.57% 16
そう思わない	0.49% 5
わからない	2.15% 22
回答数: 1,021	

Q7 現在、インターネット通販 (B to C-EC) が小売販売額に占める比率は、5%弱と推定されています。2030年に、その比率は、10%を超えると思いますか。

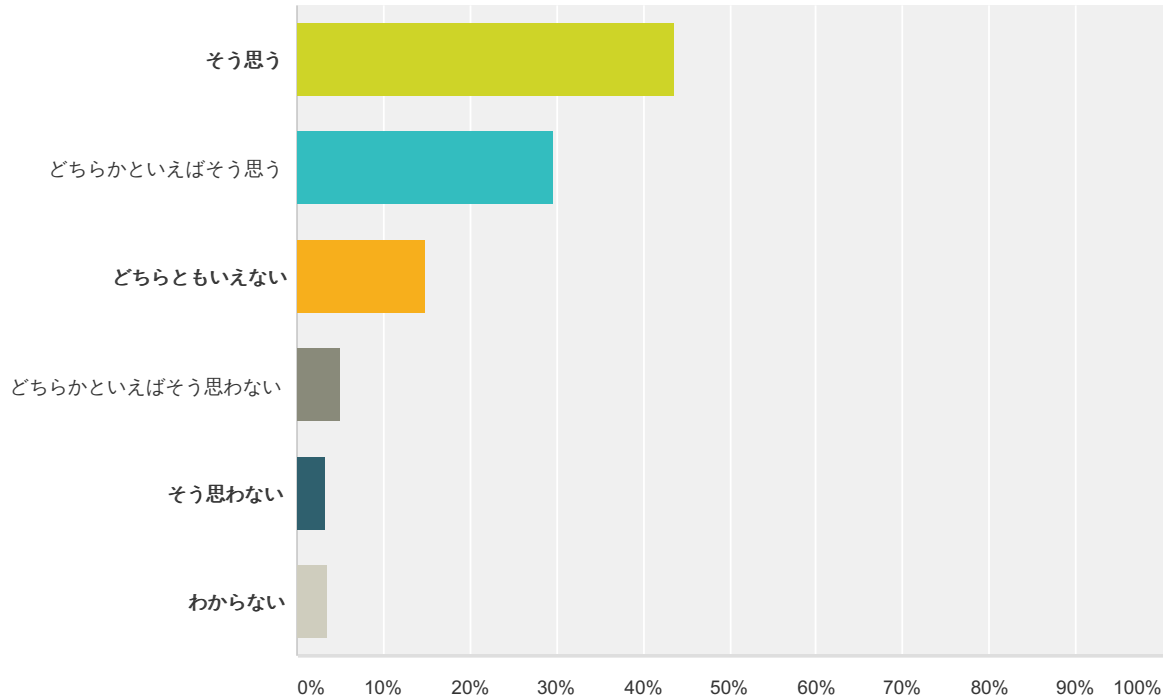
回答: 1,020 スキップ: 57



回答の選択肢	回答数
そう思う	730
どちらかといえばそう思う	211
どちらともいえない	21
どちらかといえばそう思わない	23
そう思わない	18
わからない	17
合計	1,020

Q8 現在、企業間電子商取引 (BtoB-EC) が企業間取引額に占める比率は、27%程度と推定されています。2030年に、その比率は、40%を超えると思いますか。

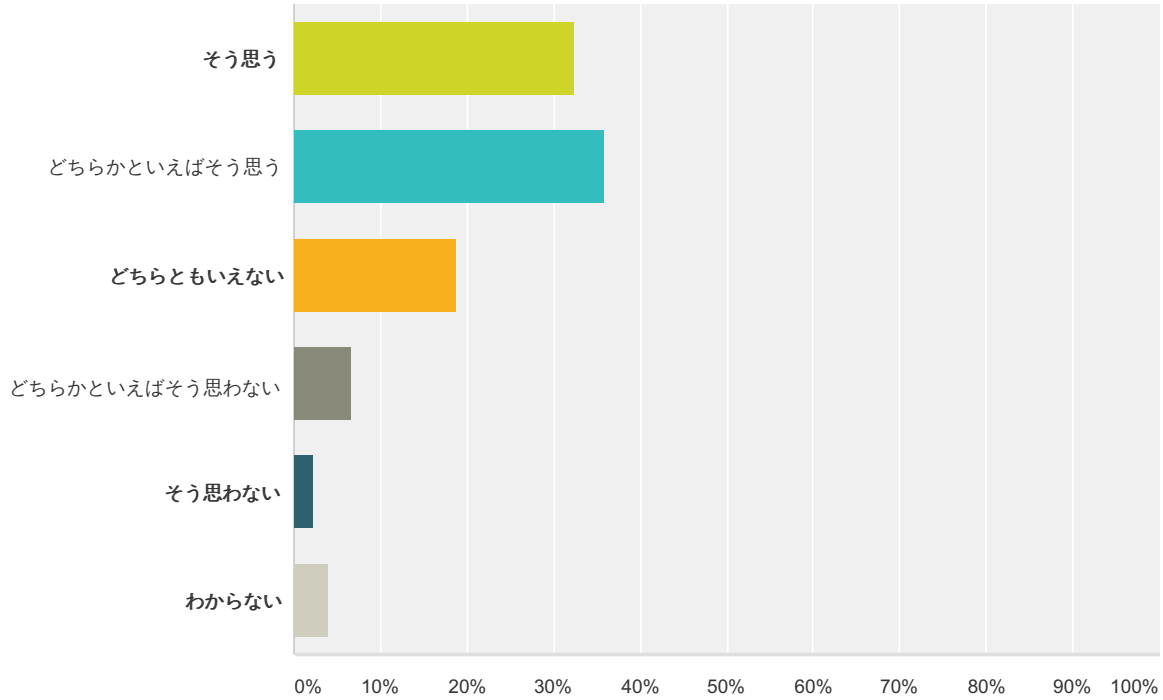
回答: 1,018 スキップ: 59



回答の選択肢	回答数
そう思う	43.71% 445
どちらかといえばそう思う	29.57% 301
どちらともいえない	14.73% 150
どちらかといえばそう思わない	5.11% 52
そう思わない	3.34% 34
わからない	3.54% 36
合計	1,018

Q9 現在、国境を超えた企業間電子商取引（越境BtoB-EC）で世界中から部品、半製品、製品等を調達する動きがみられます。今後、越境BtoB-ECによって、国際水平分業はさらに大きく拡大すると思いますか。

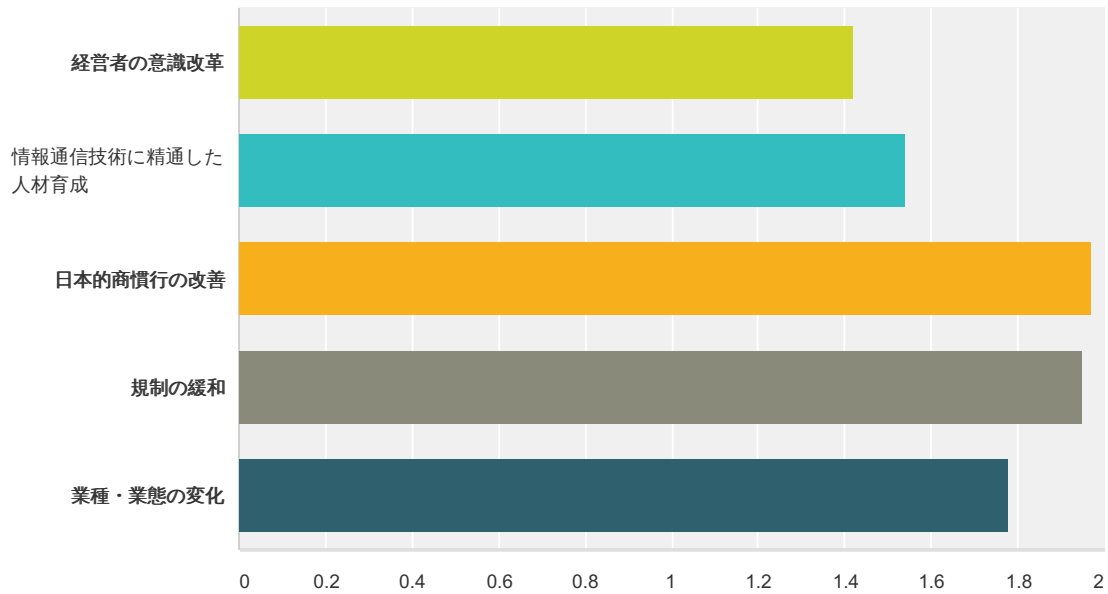
回答: 1,018 スキップ: 59



回答の選択肢	回答数	割合
そう思う	329	32.32%
どちらかといえばそう思う	366	35.95%
どちらともいえない	192	18.86%
どちらかといえばそう思わない	67	6.58%
そう思わない	24	2.36%
わからない	40	3.93%
合計	1,018	

Q10 今後、情報化が進むにつれて、以下の対応が迫られると思いますか。

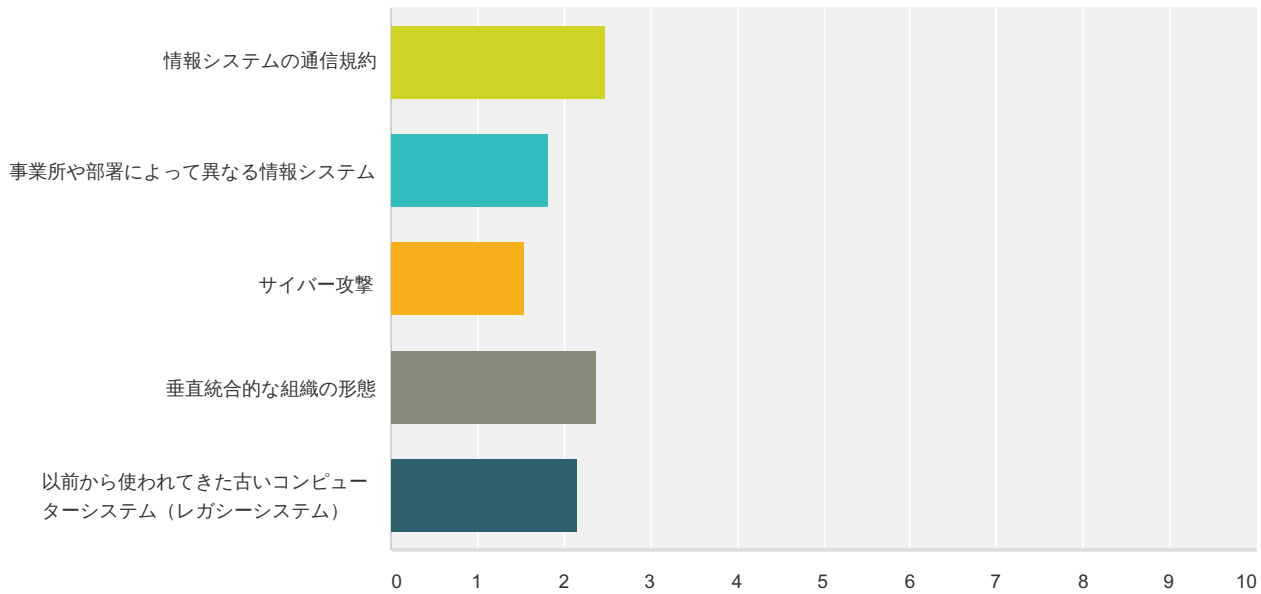
回答: 1,020 スキップ: 57



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	合計	加重平均
経営者の意識改革	66.08% 674	27.55% 281	5.49% 56	0.39% 4	0.10% 1	0.39% 4	1,020	1.42
情報通信技術に精通した人材育成	57.37% 584	34.28% 349	6.78% 69	0.69% 7	0.69% 7	0.20% 2	1,018	1.54
日本的商慣行の改善	36.91% 375	37.40% 380	20.37% 207	3.25% 33	1.08% 11	0.98% 10	1,016	1.97
規制の緩和	39.10% 398	36.25% 369	19.25% 196	2.26% 23	2.06% 21	1.08% 11	1,018	1.95
業種・業態の変化	43.67% 445	39.65% 404	14.03% 143	1.28% 13	0.49% 5	0.88% 9	1,019	1.78

Q11 今後、情報化を進めるうえで、以下は、 阻害要因になると考えますか。

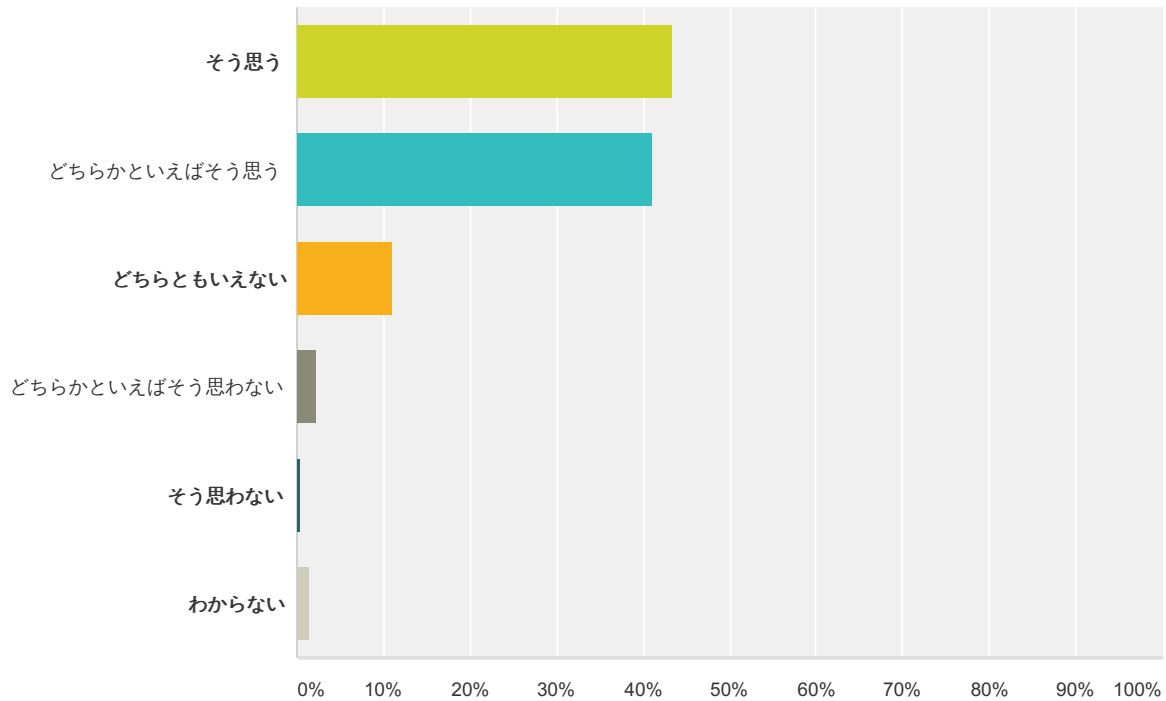
回答: 991 スキップ: 86



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	合計	加重平均
情報システムの通信規約	21.64% 214	34.48% 341	30.13% 298	5.86% 58	3.34% 33	4.55% 45	989	2.48
事業所や部署によって異なる情報システム	48.03% 476	33.00% 327	11.81% 117	3.94% 39	2.22% 22	1.01% 10	991	1.82
サイバー攻撃	63.68% 626	23.91% 235	8.44% 83	2.64% 26	0.71% 7	0.61% 6	983	1.55
垂直統合的な組織の形態	22.41% 221	34.99% 345	30.93% 305	6.49% 64	3.25% 32	1.93% 19	986	2.39
以前から使われてきた古いコンピューターシステム (レガシーシステム)	33.87% 335	36.91% 365	18.30% 181	4.85% 48	3.34% 33	2.73% 27	989	2.15

Q12 今後、IoTによって取得・蓄積されたデータを分析し、新たなビジネス・チャンスを出し、新しいサービスを展開していくことができると思いますか。

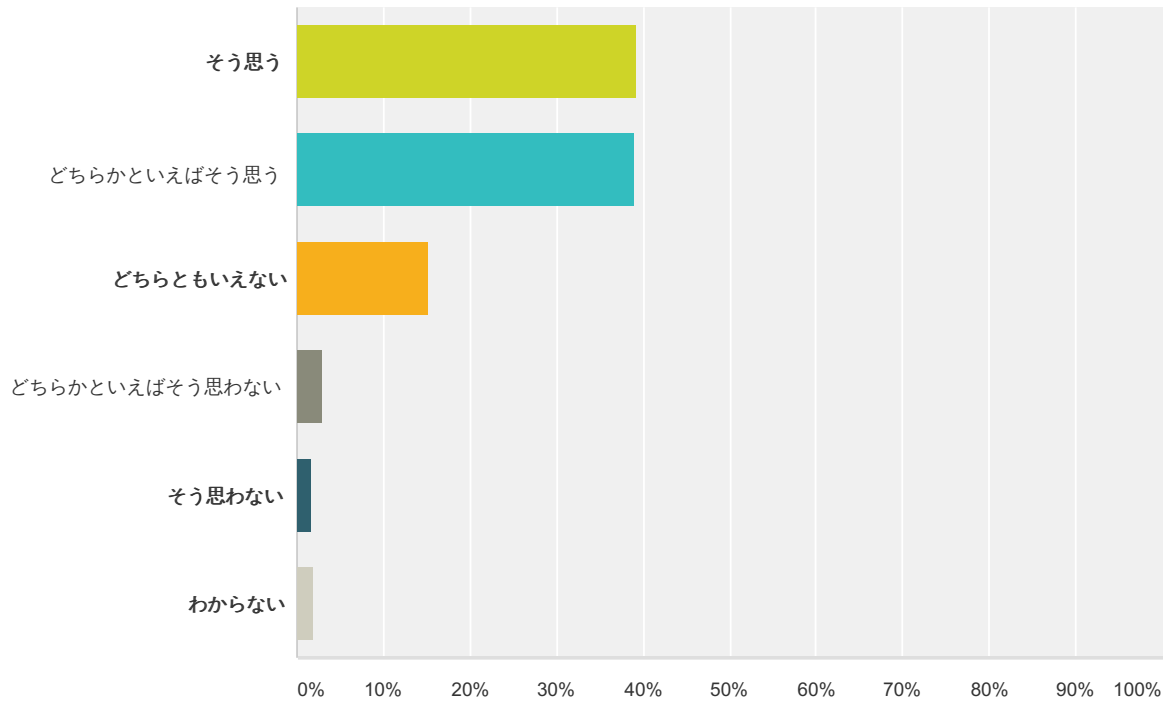
回答: 991 スキップ: 86



回答の選択肢	回答数
そう思う	43.49% 431
どちらかといえばそう思う	41.17% 408
どちらともいえない	11.00% 109
どちらかといえばそう思わない	2.32% 23
そう思わない	0.50% 5
わからない	1.51% 15
合計	991

Q13 今後、IoTで得られたデータをもとに、新たな物流・ロジスティクスモデルを創出して、物流生産性の向上と利益(率)の拡大に貢献できると思いますか。

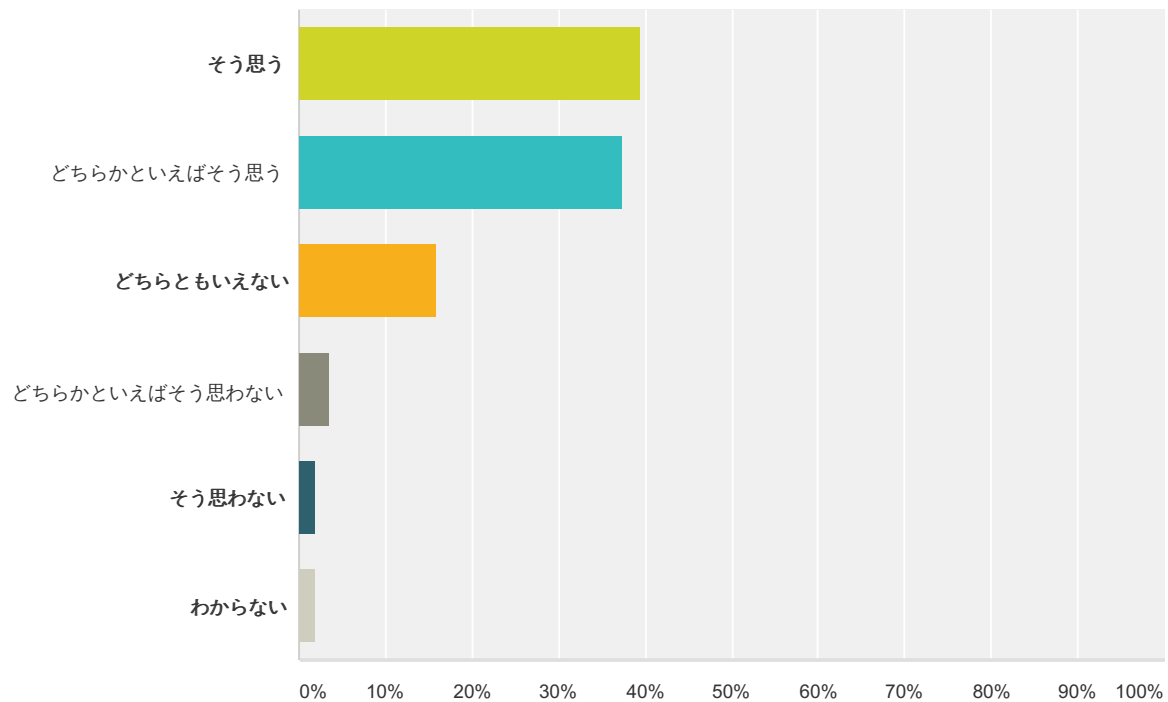
回答: 987 スキップ: 90



回答の選択肢	回答数
そう思う	39.21% 387
どちらかといえばそう思う	39.11% 386
どちらともいえない	15.30% 151
どちらかといえばそう思わない	2.84% 28
そう思わない	1.62% 16
わからない	1.93% 19
合計	987

Q14 IoTの普及による社内各部門の水平統合により、ロジスティクス部門の役割は、今後、重要度を増してくると思いますか。

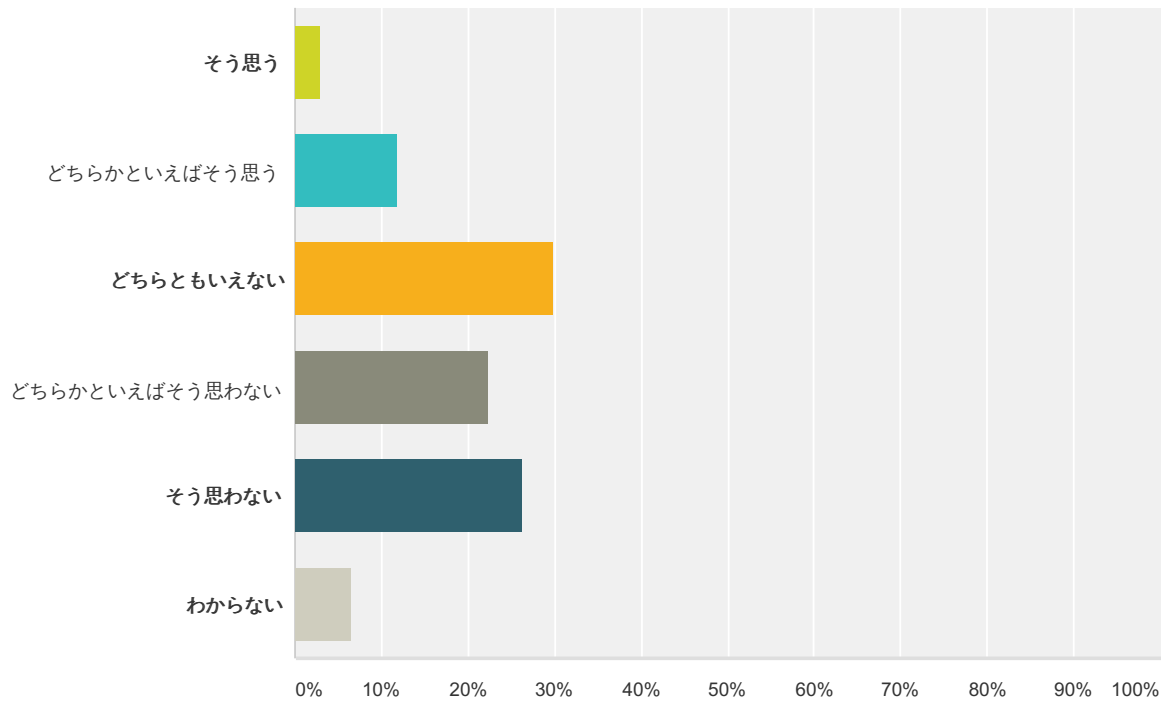
回答: 989 スキップ: 88



回答の選択肢	回答数
そう思う	391
どちらかといえばそう思う	370
どちらともいえない	157
どちらかといえばそう思わない	35
そう思わない	18
わからない	18
合計	989

Q15 あなたの会社の物流情報化の現状は、同業他社と比べて、先行していると思いますか。

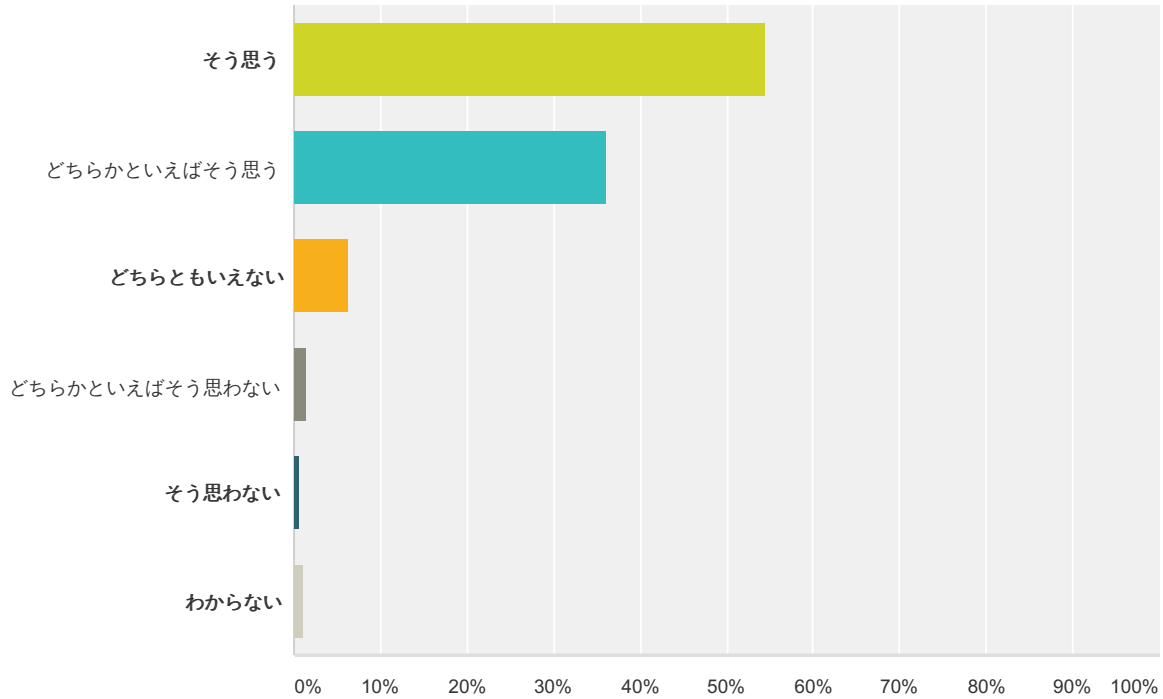
回答: 989 スキップ: 88



回答の選択肢	回答数
そう思う	29
どちらかといえばそう思う	118
どちらともいえない	296
どちらかといえばそう思わない	221
そう思わない	260
わからない	65
合計	989

Q16 現在、すでに、トラックなどの移動体に情報通信システムを実装して、リアルタイムに情報を提供する技術（テレマティクス）など、IoTを活用した例があげられます。今後の輸配送において、IoTの活用例が増えていくと思いますか。

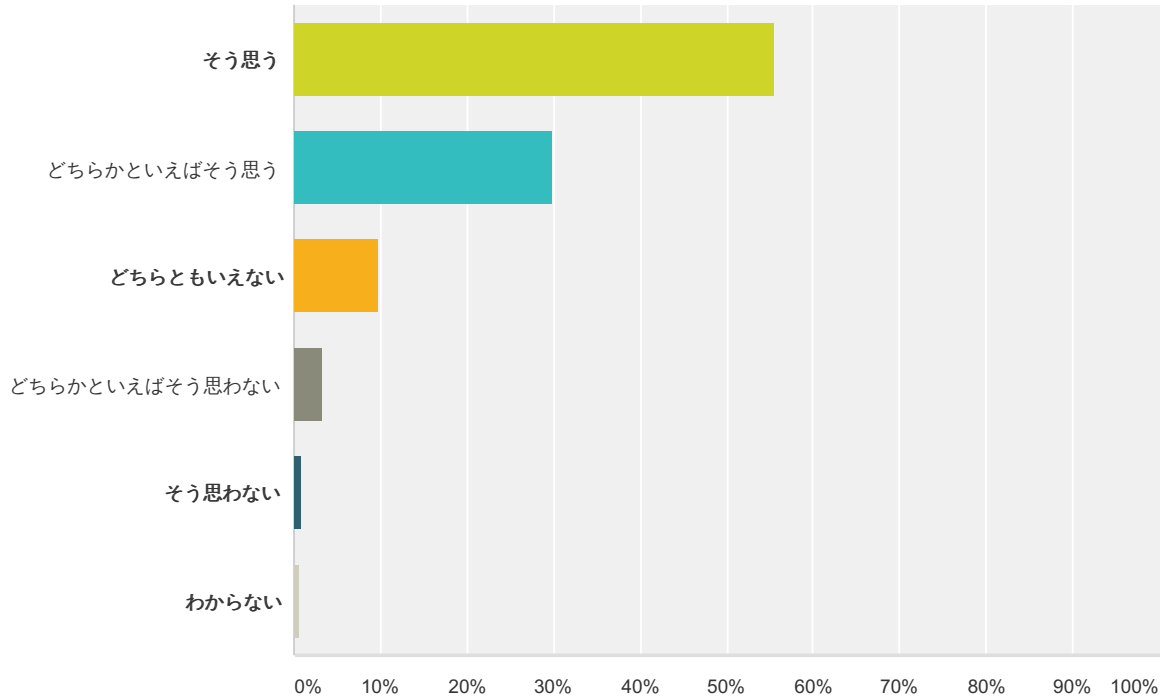
回答: 967 スキップ: 110



回答の選択肢	回答数
そう思う	54.40% 526
どちらかといえばそう思う	36.19% 350
どちらともいえない	6.31% 61
どちらかといえばそう思わない	1.45% 14
そう思わない	0.62% 6
わからない	1.03% 10
合計	967

Q17 現在、ロボットが入出庫を行ったり、ネットワークロボットが倉庫内を自動で動き回ったりするなど、自動制御された新しいマテハンが登場しています。今後、自動制御されたマテハンの種類・数は増加していくと思いますか。

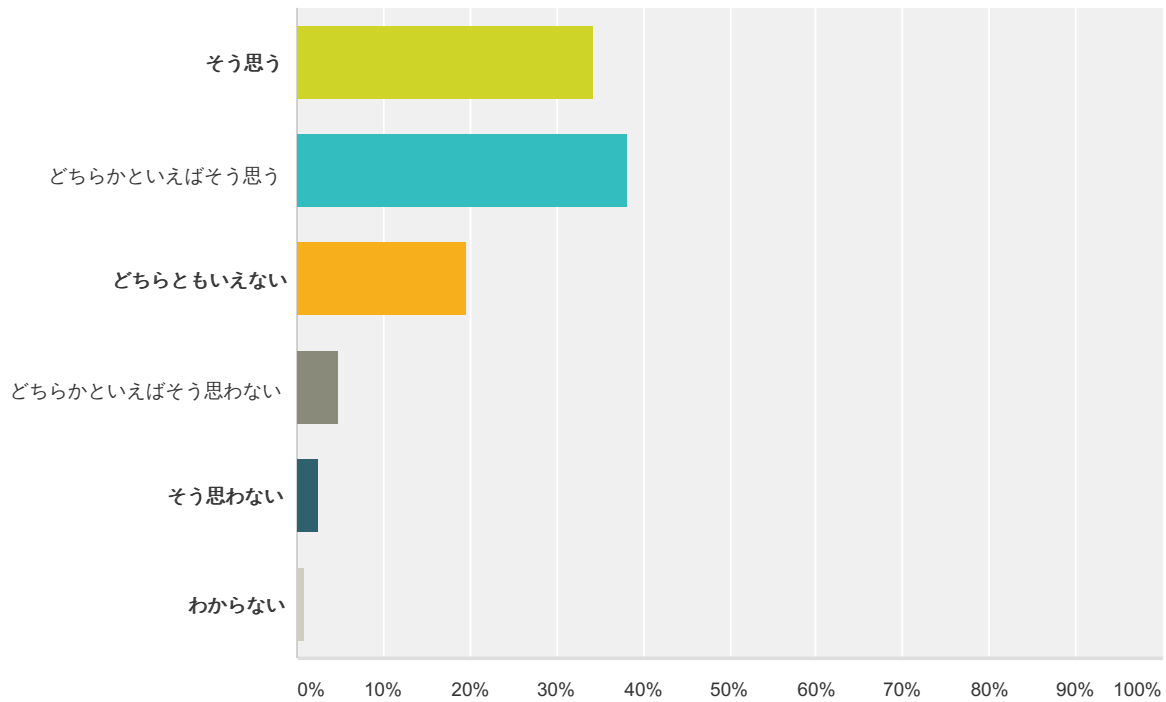
回答: 971 スキップ: 106



回答の選択肢	回答数	割合
そう思う	539	55.51%
どちらかといえばそう思う	290	29.87%
どちらともいえない	95	9.78%
どちらかといえばそう思わない	33	3.40%
そう思わない	8	0.82%
わからない	6	0.62%
合計	971	

Q18 今後、ロボットが、人間に代わって、荷役機能を担っていくと思いますか。

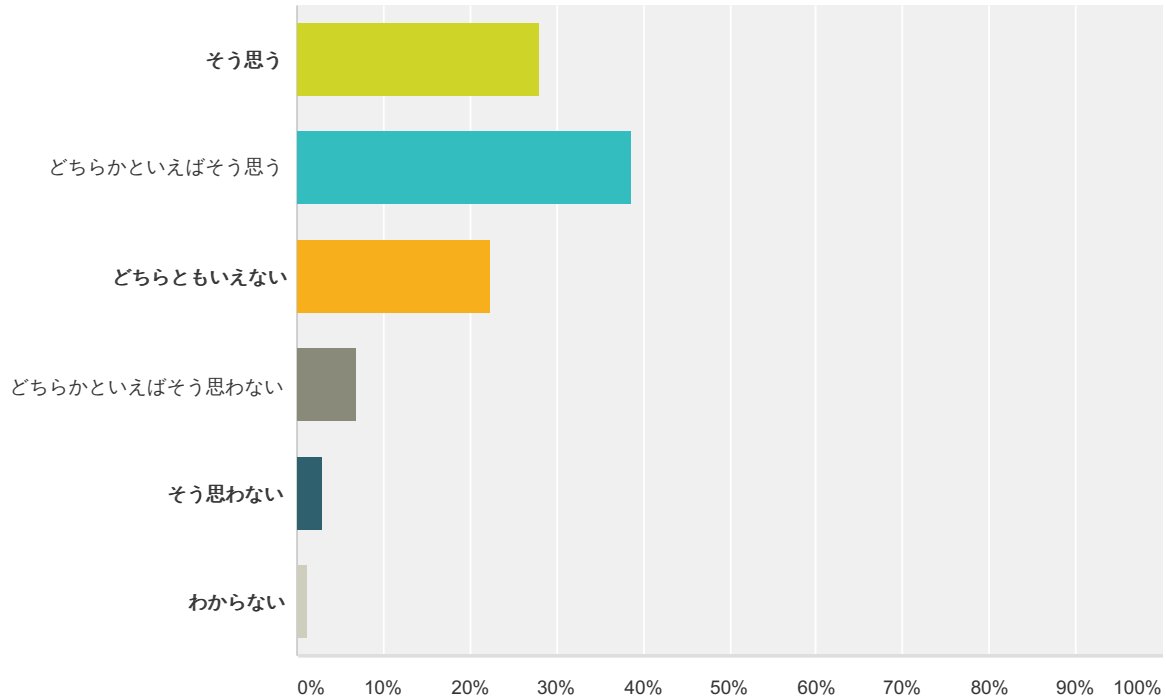
回答: 973 スキップ: 104



回答の選択肢	回答数
そう思う	34.22% 333
どちらかといえばそう思う	38.13% 371
どちらともいえない	19.63% 191
どちらかといえばそう思わない	4.73% 46
そう思わない	2.47% 24
わからない	0.82% 8
合計	973

Q19 今後、IoTによる情報化を通じて、出荷データ等をオープンな環境で共有することで、企業のマッチングや配送のシェアリングなどが進んでいくと思いますか。

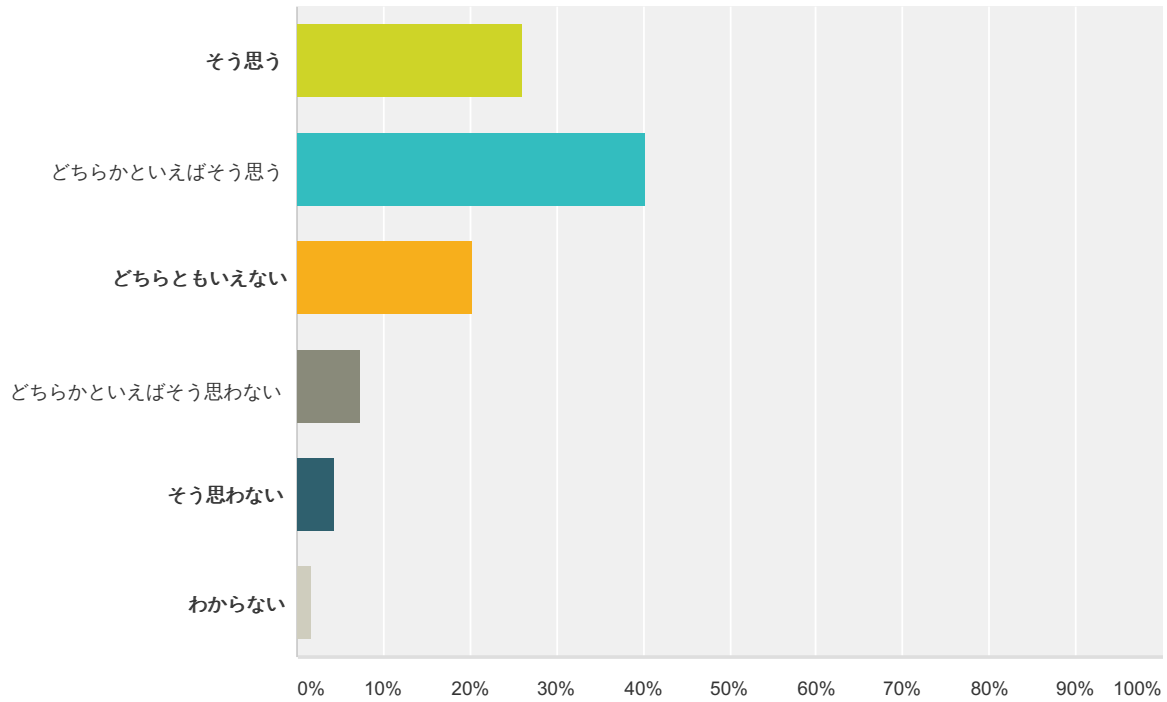
回答: 964 スキップ: 113



回答の選択肢	回答数
そう思う	27.90% 269
どちらかといえばそう思う	38.59% 372
どちらともいえない	22.41% 216
どちらかといえばそう思わない	6.85% 66
そう思わない	2.90% 28
わからない	1.35% 13
合計	964

Q20 今後、店頭の商品の購入実績に係るビッグ・データを用いて、長期的な需要予測の精度向上が実現できると思いますか。

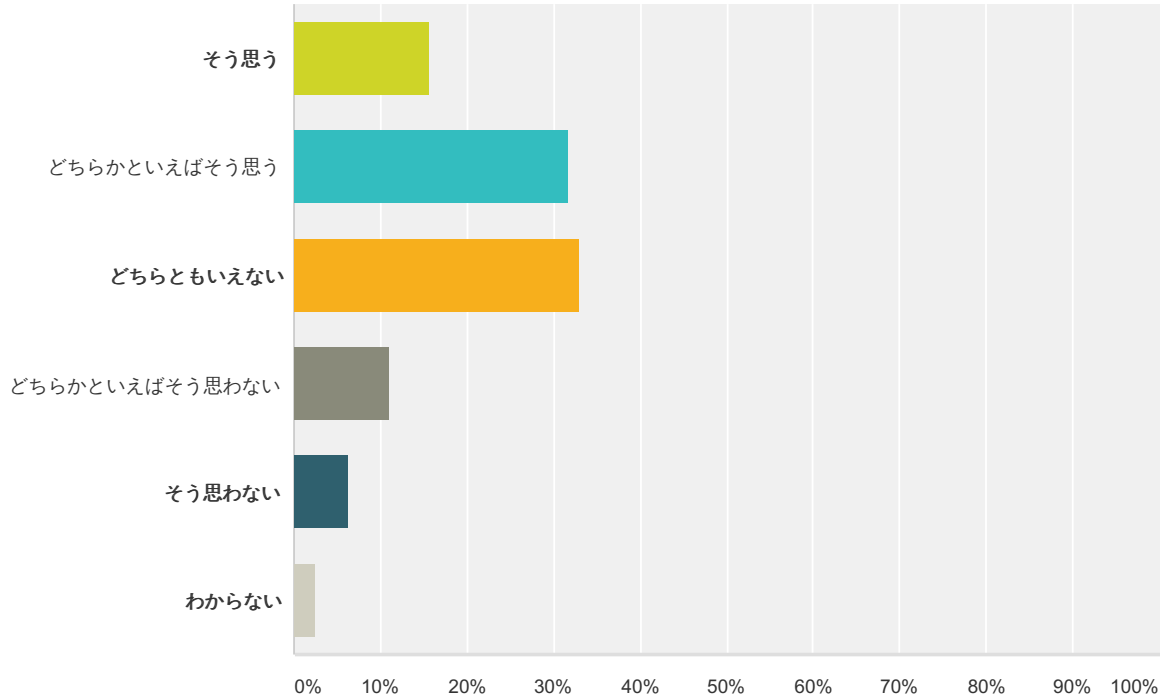
回答: 967 スキップ: 110



回答の選択肢	回答数
そう思う	26.06% 252
どちらかといえばそう思う	40.23% 389
どちらともいえない	20.17% 195
どちらかといえばそう思わない	7.34% 71
そう思わない	4.45% 43
わからない	1.76% 17
合計	967

Q21 今後、日本企業がIoTを活用して、製品の生産量、出荷量、販売量などを的確に予測することによって、世界的に見ても、先進的な物流・ロジスティクスのモデルを創り出すことができますか。

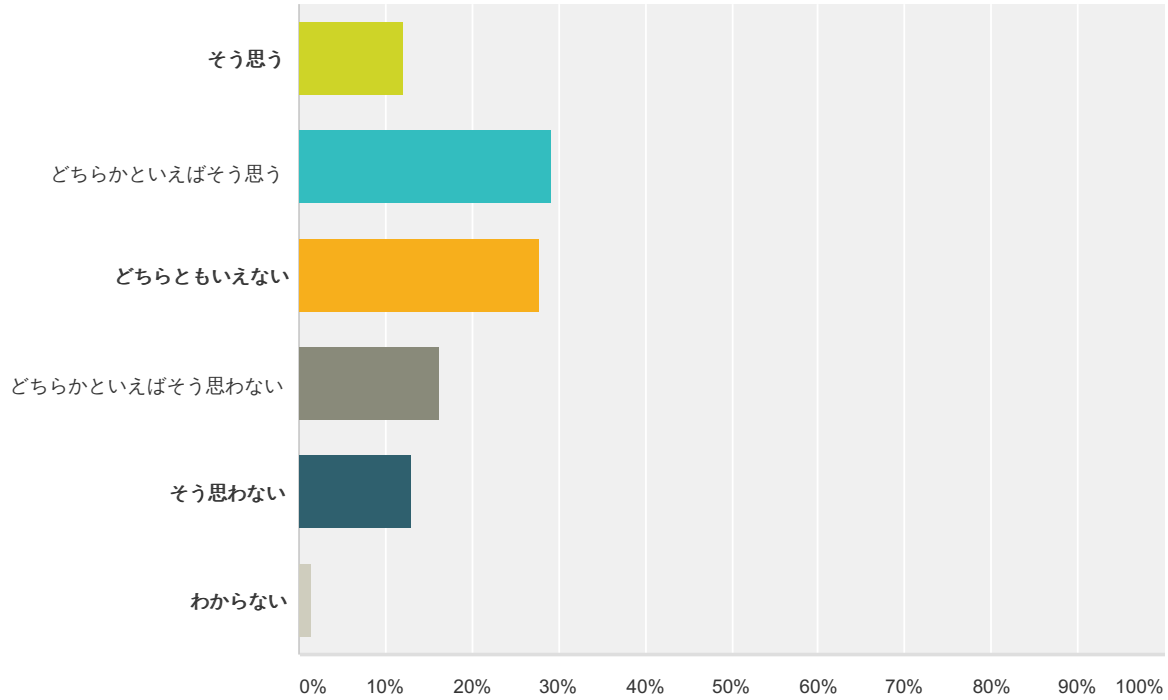
回答: 970 スキップ: 107



回答の選択肢	回答数	割合
そう思う	151	15.57%
どちらかといえばそう思う	307	31.65%
どちらともいえない	320	32.99%
どちらかといえばそう思わない	108	11.13%
そう思わない	60	6.19%
わからない	24	2.47%
合計	970	

Q22 物流業界では、ドライバー不足が問題になっています。今後、需要予測やIoTを活用して、荷主連携による共同輸配送を実現することにより、ドライバー不足の問題が緩和すると思いますか。

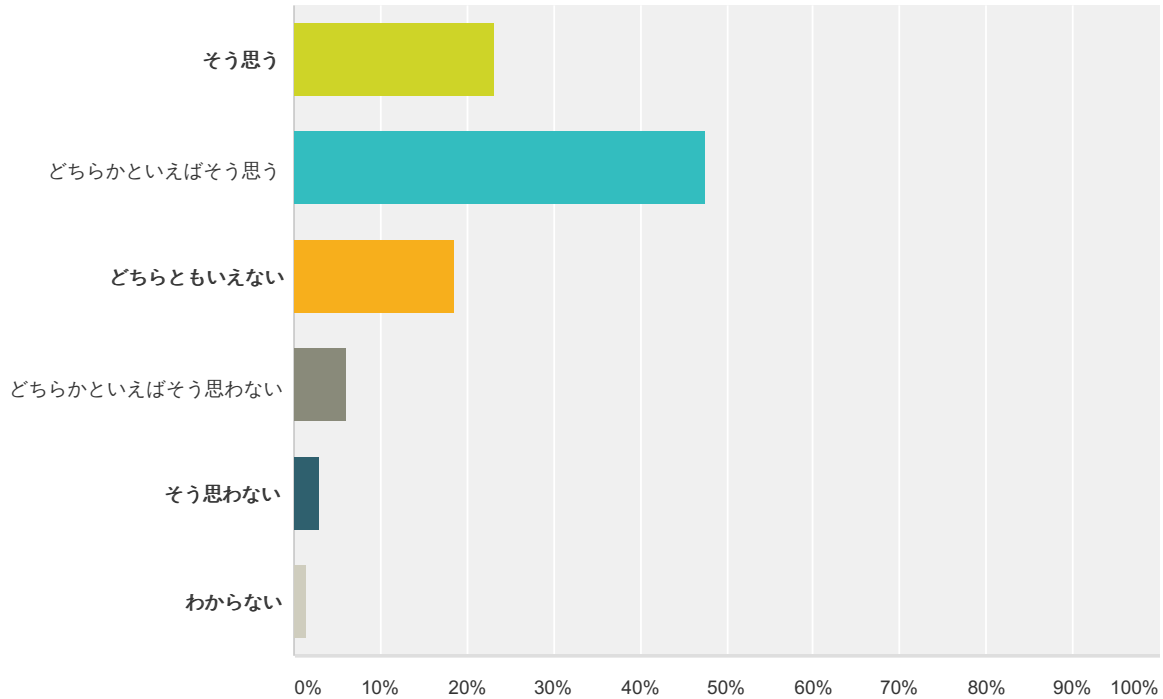
回答: 955 スキップ: 122



回答の選択肢	回答数
そう思う	116
どちらかといえばそう思う	280
どちらともいえない	265
どちらかといえばそう思わない	156
そう思わない	124
わからない	14
合計	955

Q23 今後、情報化の進展により、輸配送に係る計画系、並びに、実行系のシステムが発展することで、積載効率や回転数を向上させることができると思いますか。

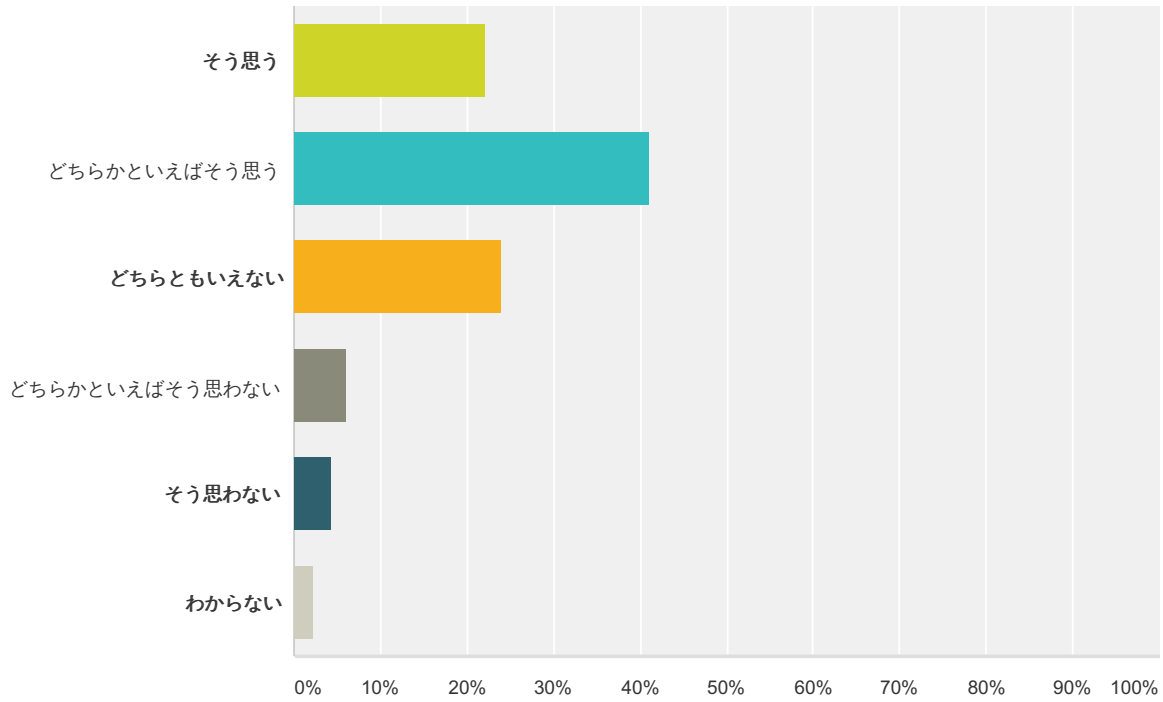
回答: 959 スキップ: 118



回答の選択肢	回答数
そう思う	23.15% 222
どちらかといえばそう思う	47.65% 457
どちらともいえない	18.67% 179
どちらかといえばそう思わない	6.05% 58
そう思わない	2.92% 28
わからない	1.56% 15
合計	959

Q24 今後、IoTを活用することで、保管効率を向上させることができますか。

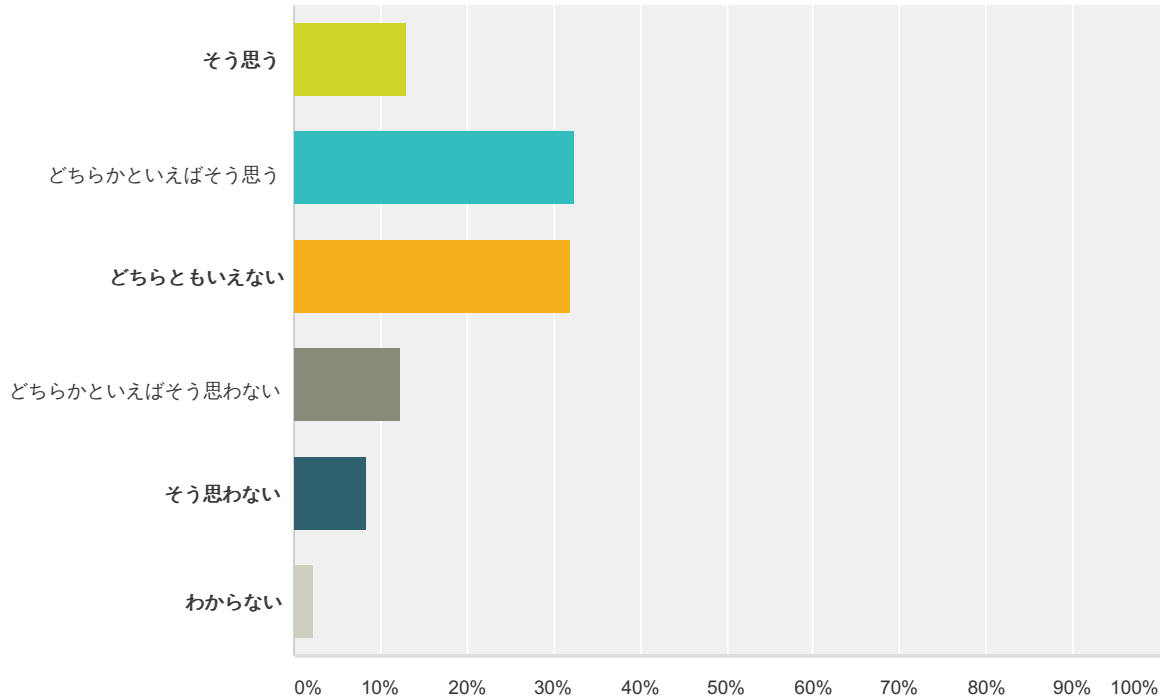
回答: 955 スキップ: 122



回答の選択肢	回答数
そう思う	22.20% 212
どちらかといえばそう思う	41.15% 393
どちらともいえない	24.08% 230
どちらかといえばそう思わない	5.97% 57
そう思わない	4.29% 41
わからない	2.30% 22
合計	955

**Q25 今後、IoTを活用した需要予測に基づき、
適正な生産計画やそれに基づく物流計画を立て
ることで、返品削減につながっていくと思
いますか。**

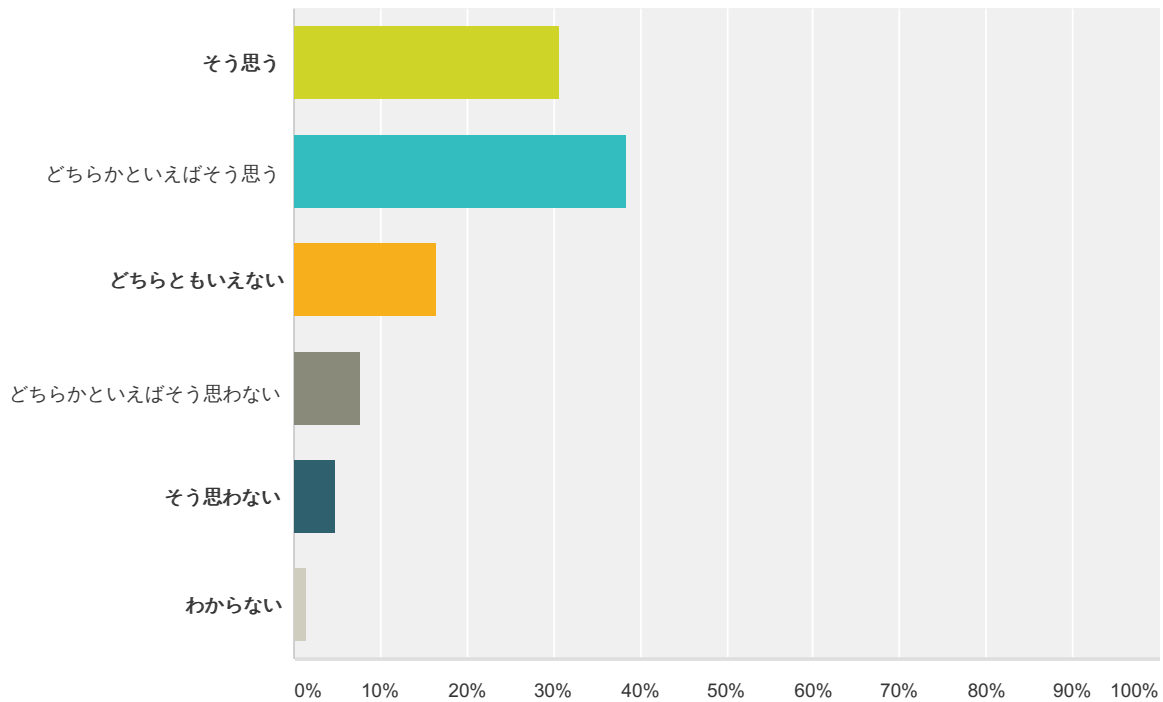
回答: 953 スキップ: 124



回答の選択肢	回答数
そう思う	12.91% 123
どちらかといえばそう思う	32.32% 308
どちらともいえない	31.90% 304
どちらかといえばそう思わない	12.38% 118
そう思わない	8.29% 79
わからない	2.20% 21
合計	953

Q26 IoTが進む中で、現在のままの形で使われ続ける可能性のあるもの（例えば、紙伝票など）もあり、多くの伝票はサイズやデータレイアウトが異なったりしています。今後、複数荷主の間で「統一伝票」を作成し、利用することで、運送事業者等の作業効率の向上につながっていくと思いますか。

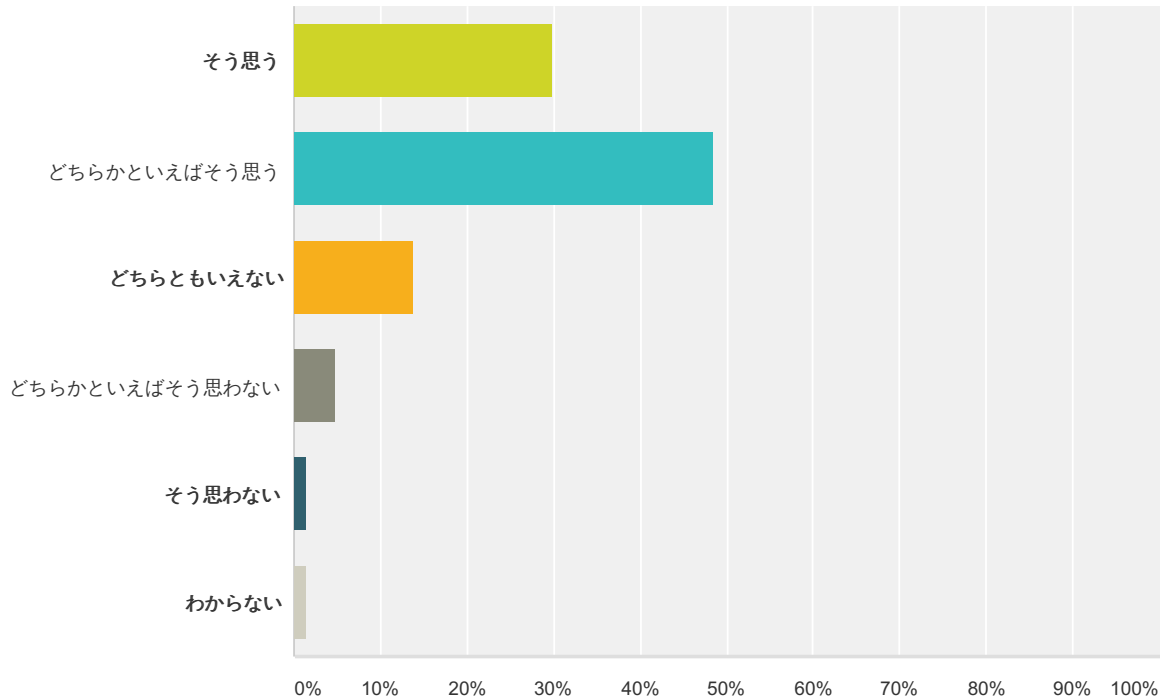
回答: 958 スキップ: 119



回答の選択肢	回答数
そう思う	30.79% 295
どちらかといえばそう思う	38.52% 369
どちらともいえない	16.49% 158
どちらかといえばそう思わない	7.72% 74
そう思わない	4.91% 47
わからない	1.57% 15
合計	958

Q27 今後、IoTにより、サプライチェーン上の諸活動が「見える化」していくことにより、在庫管理、ロケーション管理、人員計画、配車計画といった現場の作業が最適化されると思いますか。

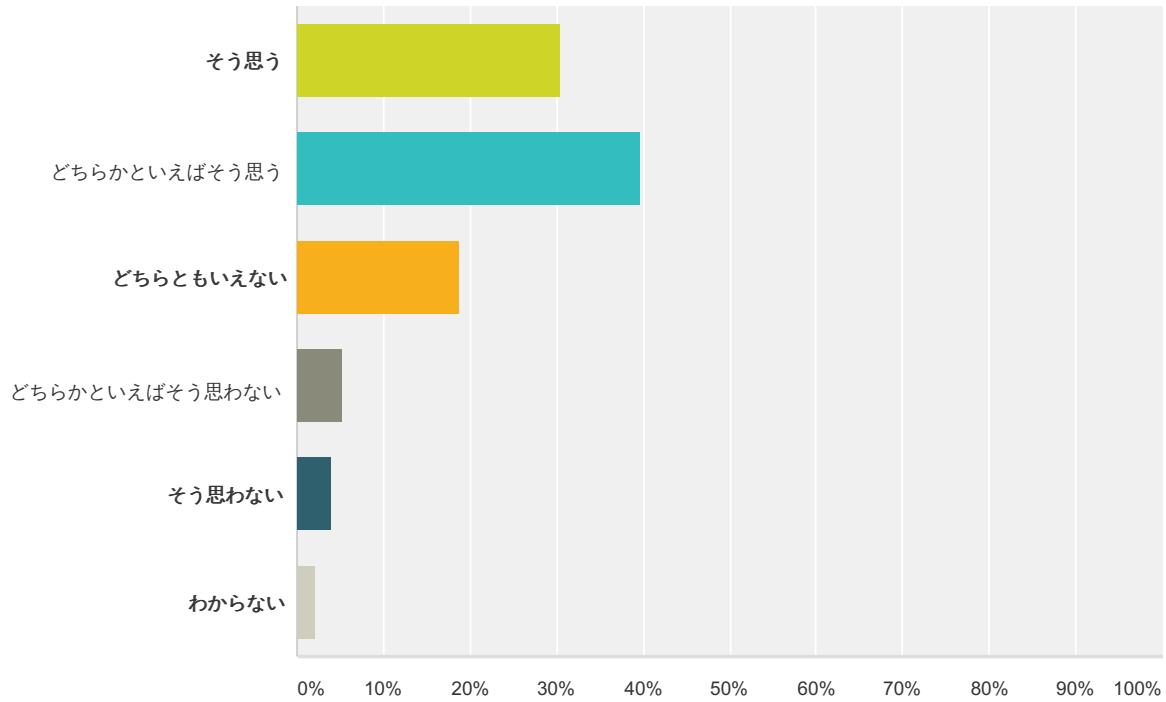
回答: 958 スキップ: 119



回答の選択肢	回答数
そう思う	29.96% 287
どちらかといえばそう思う	48.43% 464
どちらともいえない	13.78% 132
どちらかといえばそう思わない	4.80% 46
そう思わない	1.57% 15
わからない	1.46% 14
合計	958

Q28 日本国内では輸送容器（例えば、パレットなど）の多くの資材が標準化されているとはいえない状態です。今後、IoTの進展に伴って、標準化が進められていない資材等のハードウェアがボトルネックになると思いますか。

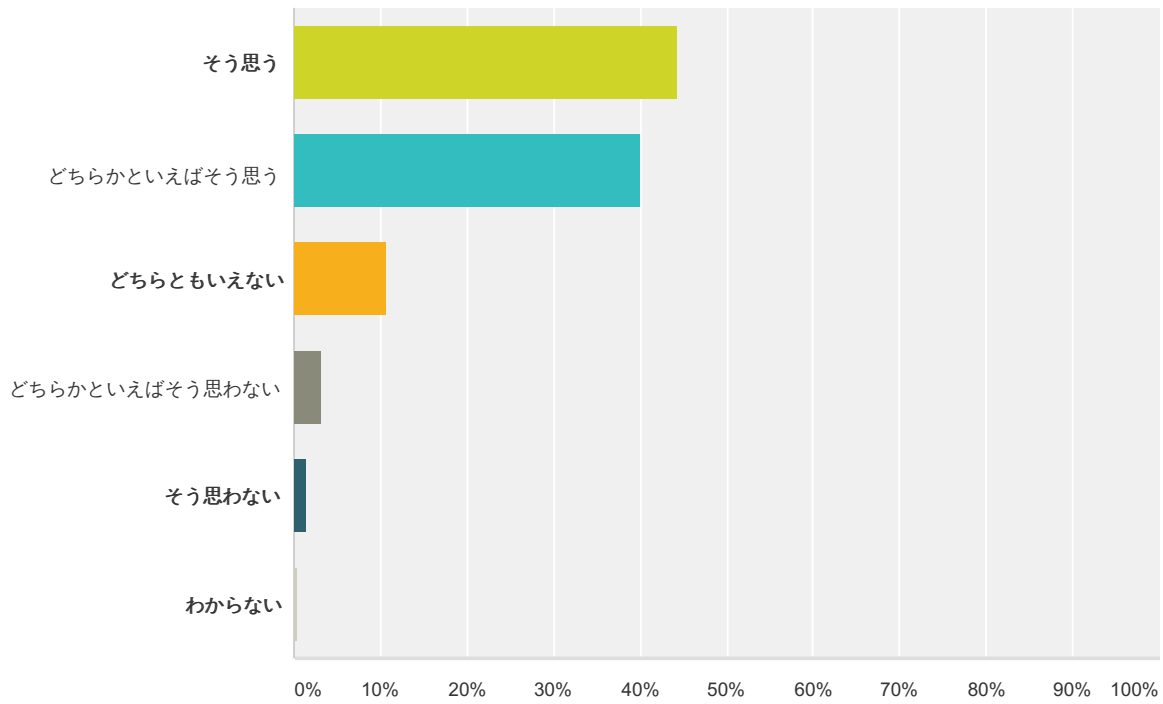
回答: 954 スキップ: 123



回答の選択肢	回答数	割合
そう思う	290	30.40%
どちらかといえばそう思う	378	39.62%
どちらともいえない	180	18.87%
どちらかといえばそう思わない	49	5.14%
そう思わない	37	3.88%
わからない	20	2.10%
合計	954	

Q29 今後、伝票の電子情報化が進むと思いますか。

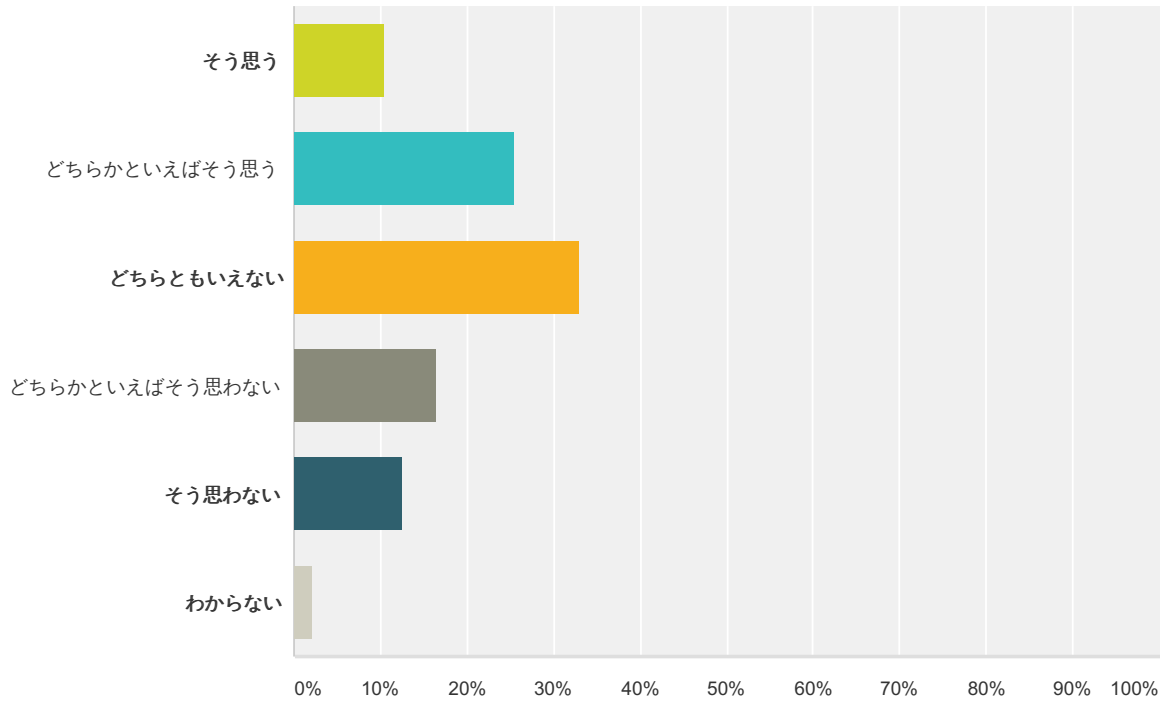
回答: 952 スキップ: 125



回答の選択肢	回答数
そう思う	44.22% 421
どちらかといえばそう思う	40.13% 382
どちらともいえない	10.71% 102
どちらかといえばそう思わない	3.15% 30
そう思わない	1.37% 13
わからない	0.42% 4
合計	952

Q30 物流情報システムが各社によって異なり、標準化された環境とはいえない状態です。今後、IoTの進展につれて、会社によって異なる物流情報システムの共通化が進むと思いますか。

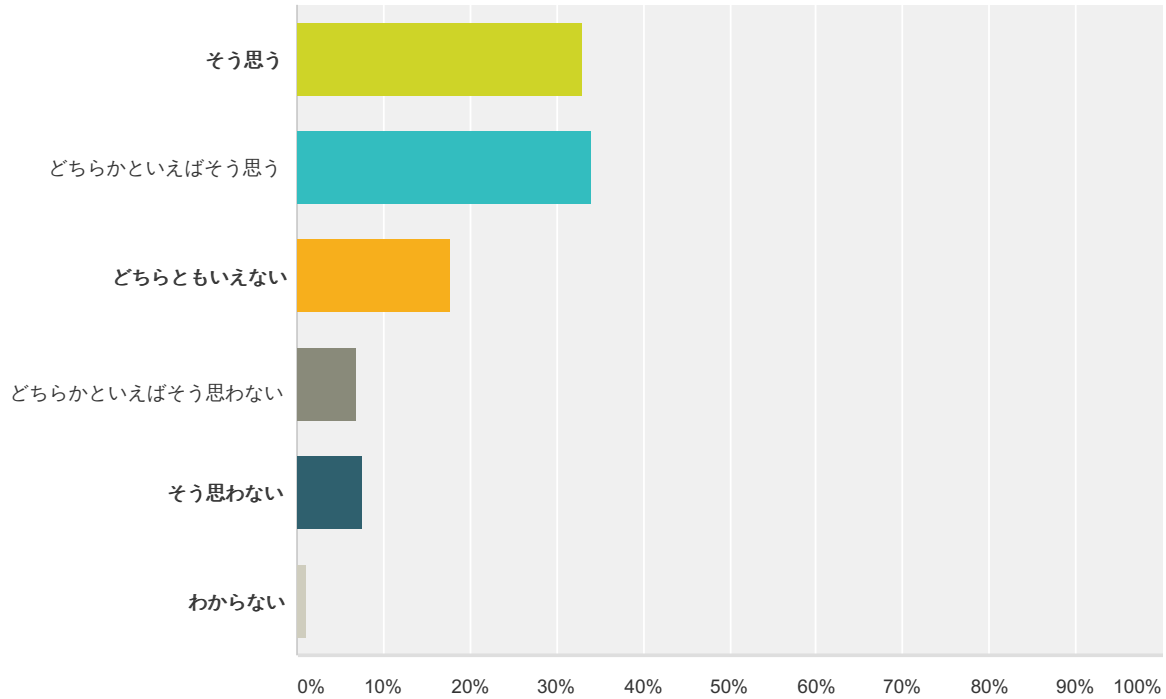
回答: 949 スキップ: 128



回答の選択肢	回答数	割合
そう思う	100	10.54%
どちらかといえばそう思う	241	25.40%
どちらともいえない	314	33.09%
どちらかといえばそう思わない	156	16.44%
そう思わない	119	12.54%
わからない	19	2.00%
合計	949	

Q31 行政では、自動走行やドローンなど、情報通信技術を用いた様々なハードウェアに関する取組みへの支援が行われています。今後、情報化を活用した物流・ロジスティクスを推進するうえで、行政によるハードインフラの整備に期待しますか。

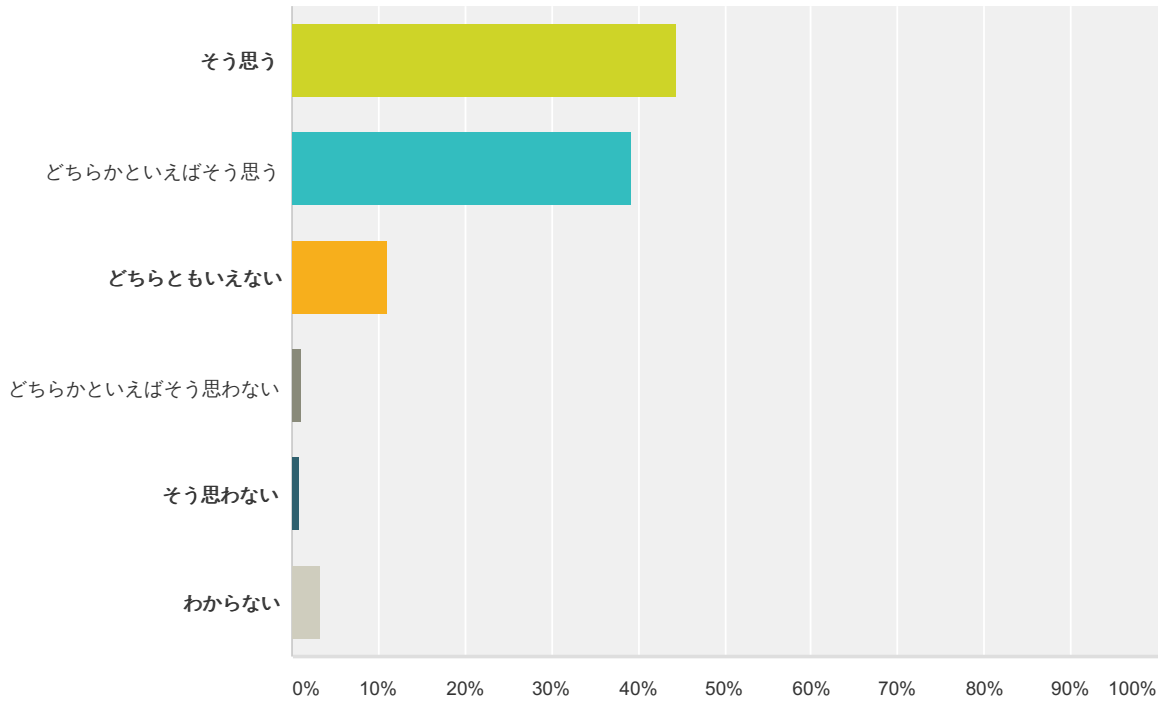
回答: 951 スキップ: 126



回答の選択肢	回答数
そう思う	32.91% 313
どちらかといえばそう思う	34.07% 324
どちらともいえない	17.67% 168
どちらかといえばそう思わない	6.94% 66
そう思わない	7.47% 71
わからない	0.95% 9
合計	951

Q32 JILSでは、IoTとロジスティクスを推進するための部会の設置を目指すなど、様々な準備を進めてきています。今後、日本において、IoT時代に対応したロジスティクスを推進するうえで、JILSの取組みに期待しますか。

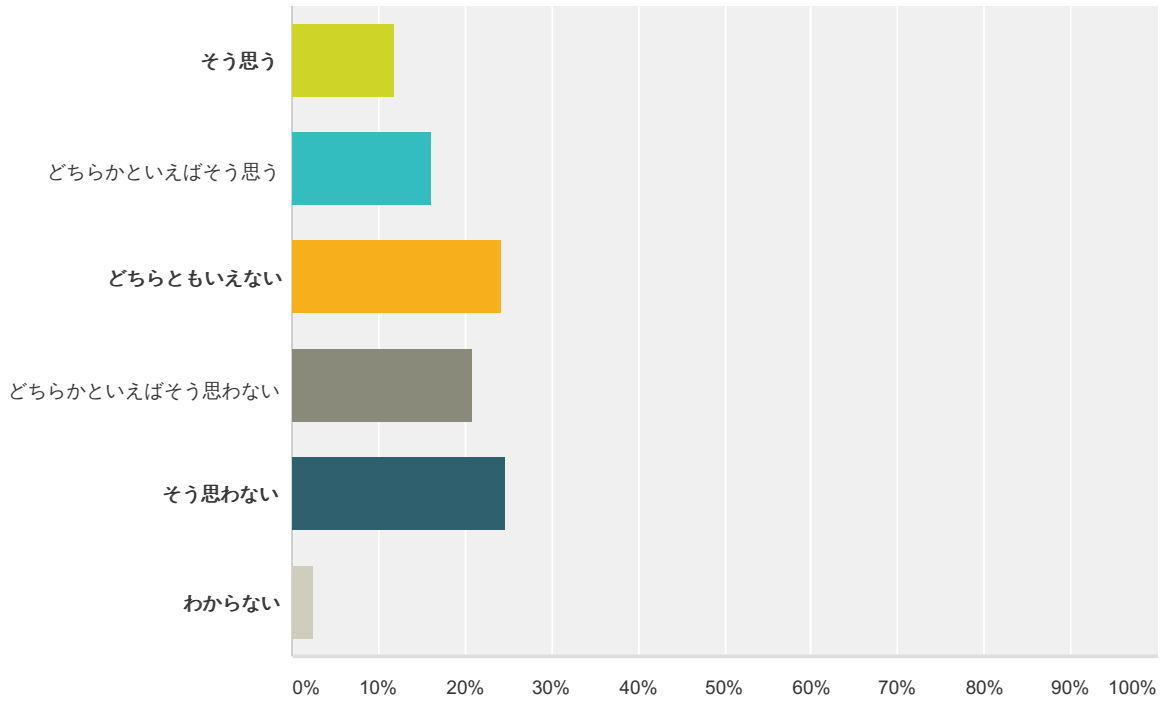
回答: 953 スキップ: 124



回答の選択肢	回答数
そう思う	44.49% 424
どちらかといえばそう思う	39.35% 375
どちらともいえない	11.02% 105
どちらかといえばそう思わない	1.05% 10
そう思わない	0.84% 8
わからない	3.25% 31
合計	953

Q33 2030年、配送トラックの無人走行が実現していると思いますか。

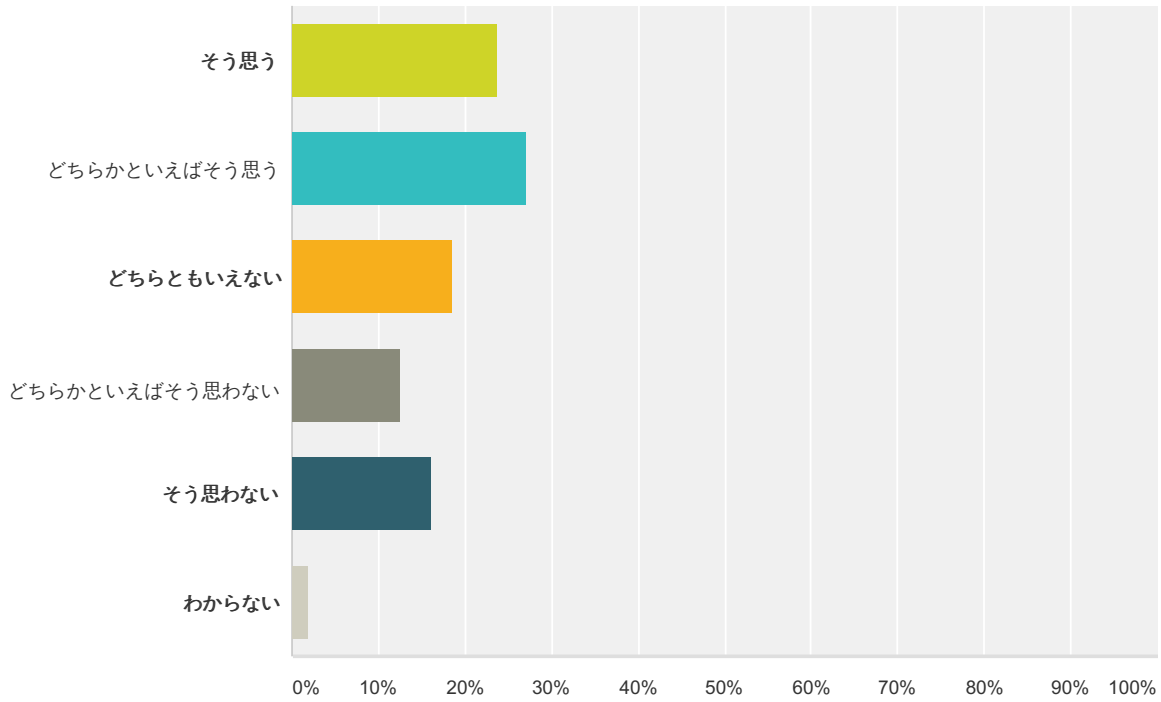
回答: 947 スキップ: 130



回答の選択肢	回答数
そう思う	11.83% 112
どちらかといえばそう思う	16.05% 152
どちらともいえない	24.18% 229
どちらかといえばそう思わない	20.80% 197
そう思わない	24.71% 234
わからない	2.43% 23
合計	947

Q34 2030年、大型幹線トラックの無人走行が実現していると思いますか。

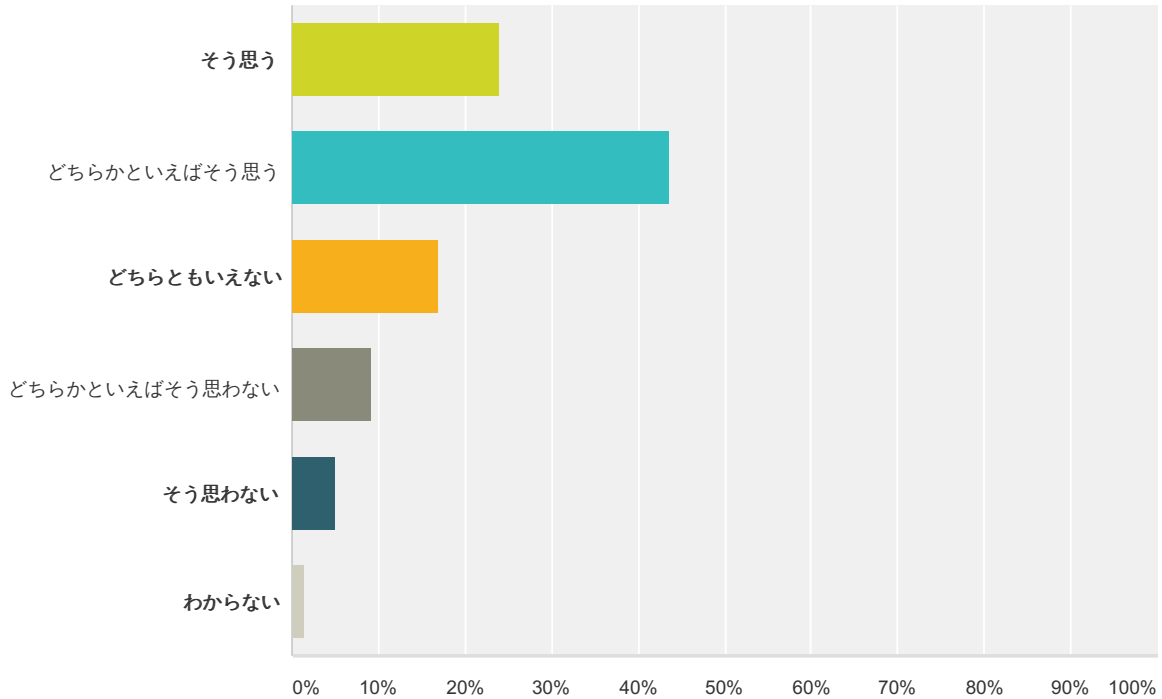
回答: 948 スキップ: 129



回答の選択肢	回答数
そう思う	23.73% 225
どちらかといえばそう思う	27.11% 257
どちらともいえない	18.67% 177
どちらかといえばそう思わない	12.55% 119
そう思わない	16.03% 152
わからない	1.90% 18
合計	948

Q35 2030年、トラックの稼働状態（積載率・走行ルート）をセンサーで把握して、情報を収集・分析することで、積載効率が向上していると思いますか。

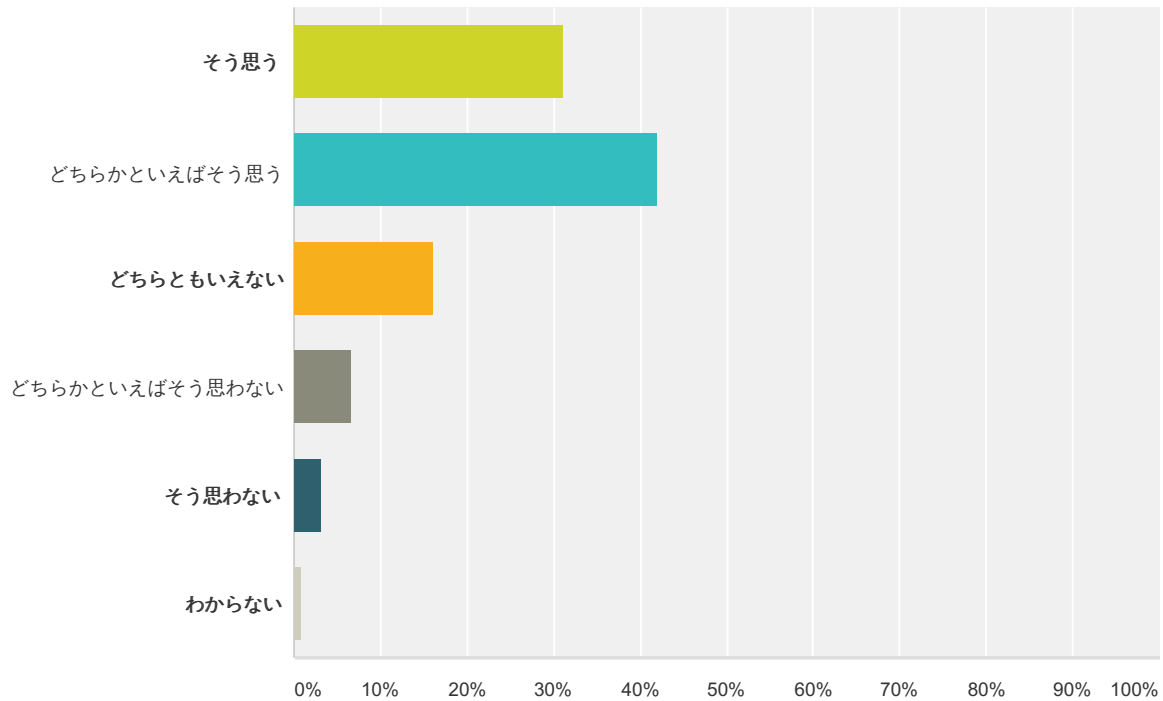
回答: 945 スキップ: 132



回答の選択肢	回答数
そう思う	226
どちらかといえばそう思う	412
どちらともいえない	160
どちらかといえばそう思わない	86
そう思わない	47
わからない	14
合計	945

Q36 2030年、身に付けて持ち歩びができる情報端末（ウェアラブル端末）などを装備することで、ドライバーの一連の作業が「見える化」されていると思いますか。

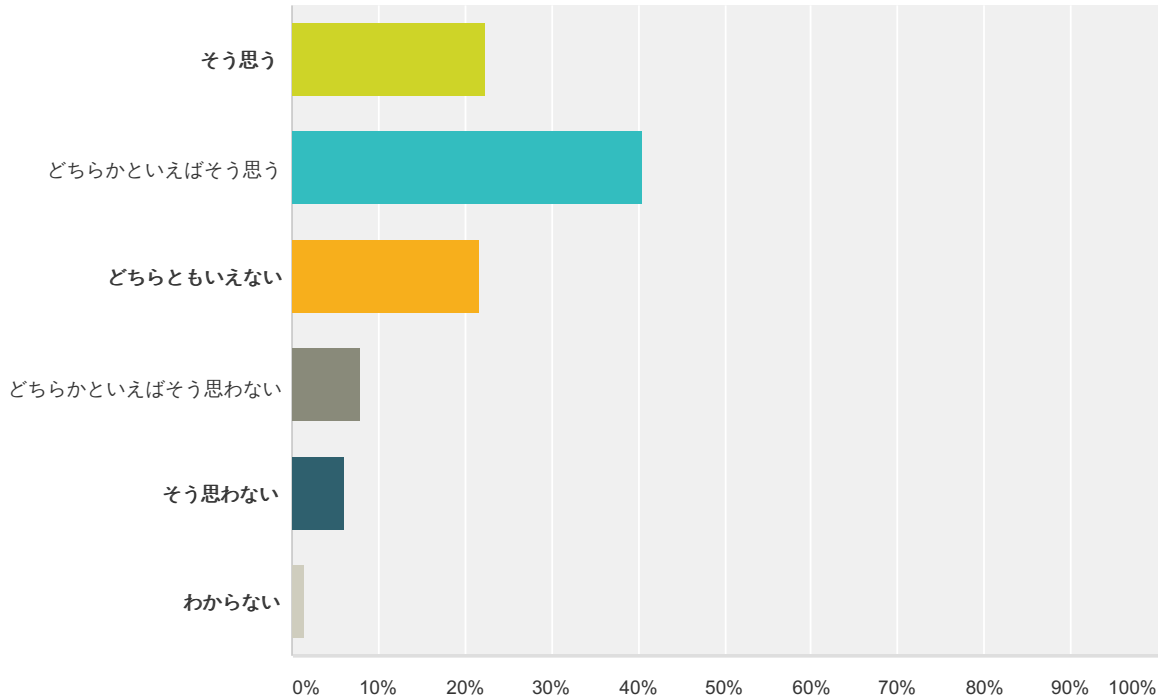
回答: 942 スキップ: 135



回答の選択肢	回答数
そう思う	31.21% 294
どちらかといえばそう思う	42.04% 396
どちらともいえない	16.14% 152
どちらかといえばそう思わない	6.58% 62
そう思わない	3.18% 30
わからない	0.85% 8
合計	942

Q37 2030年、荷役や検品データの収集と解析による、より高精度な入庫時間の予約システムが使われ、ドライバーの待機時間が削減していると思いますか。

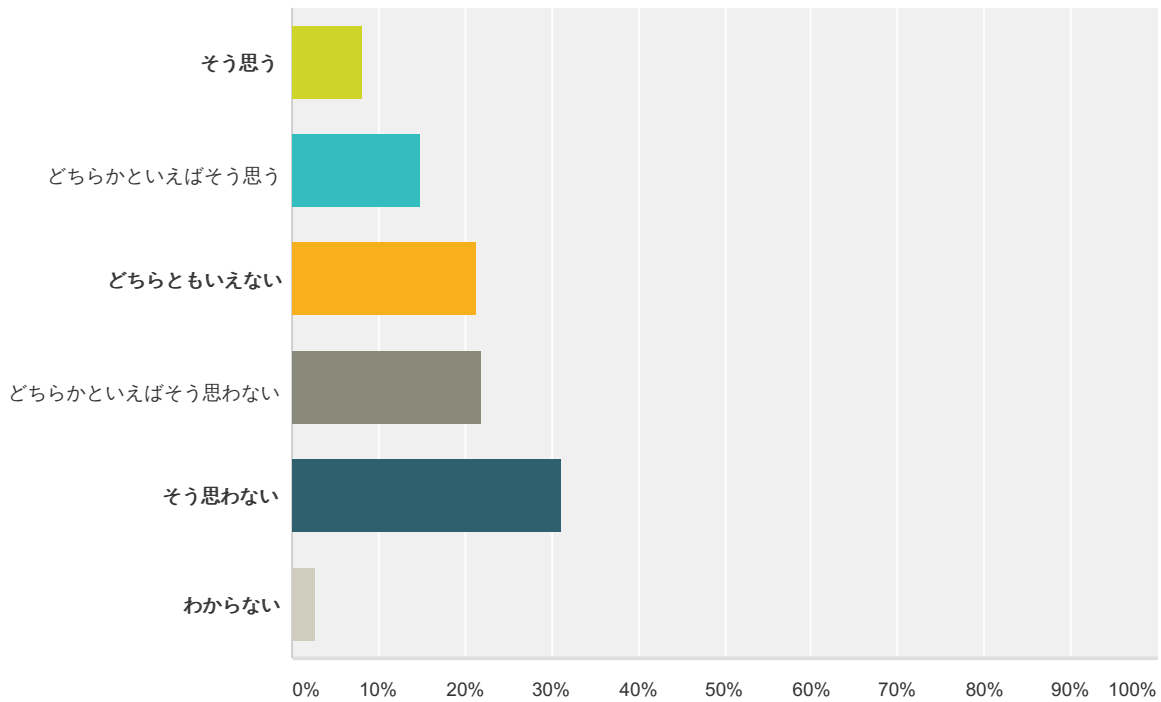
回答: 951 スキップ: 126



回答の選択肢	回答数
そう思う	22.40% 213
どちらかといえばそう思う	40.59% 386
どちらともいえない	21.66% 206
どちらかといえばそう思わない	7.99% 76
そう思わない	5.99% 57
わからない	1.37% 13
合計	951

Q38 2030年、完全無人化の物流センターが運営できると思いますか。

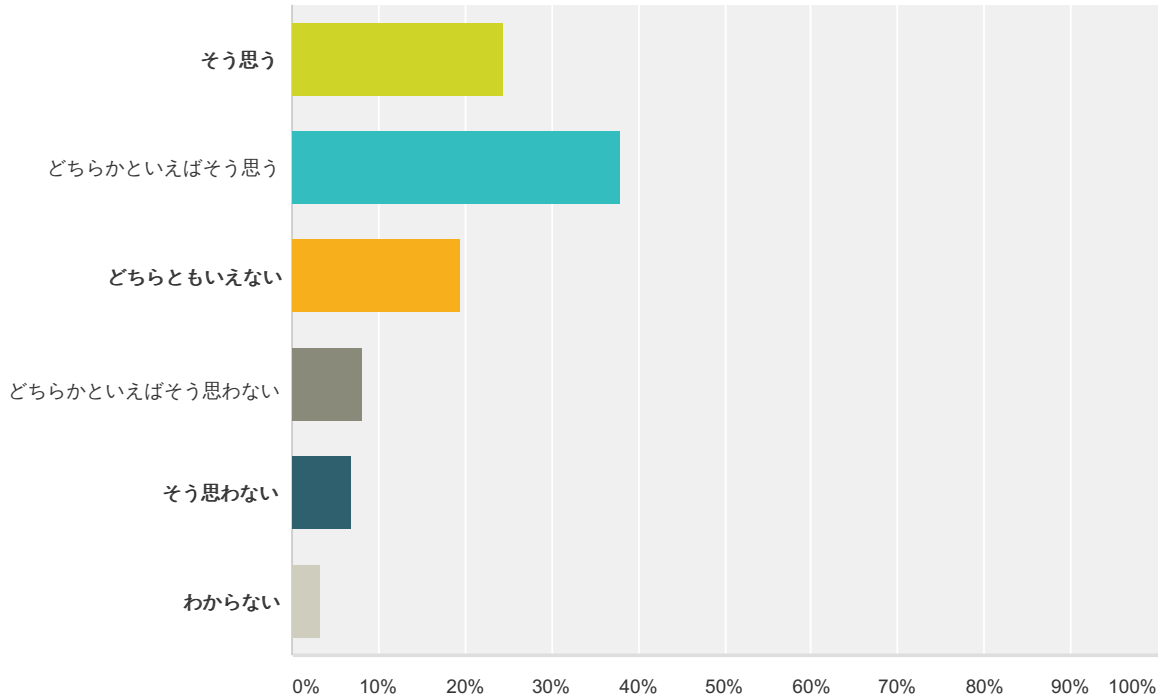
回答: 948 スキップ: 129



回答の選択肢	回答数
そう思う	78
どちらかといえばそう思う	141
どちらともいえない	201
どちらかといえばそう思わない	207
そう思わない	295
わからない	26
合計	948

Q39 2030年、商品にRFID (ICと小型アンテナが組み込まれたタグやカード状の媒体などから、電波を使ってモノを自動的に識別する技術) が付けられ、RFIDがサプライチェーンマネジメントの工程で、データ収集のためのセンサーとして機能していると思いますか。

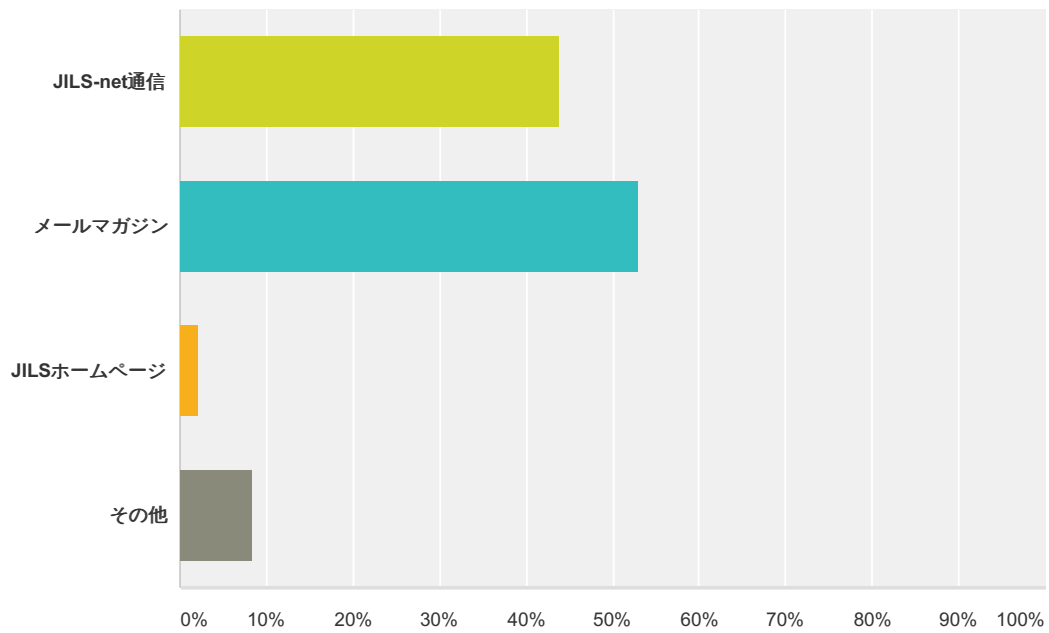
回答: 949 スキップ: 128



回答の選択肢	回答数
そう思う	24.34% 231
どちらかといえばそう思う	37.93% 360
どちらともいえない	19.49% 185
どちらかといえばそう思わない	8.11% 77
そう思わない	6.85% 65
わからない	3.27% 31
合計	949

Q40 このWebアンケートについて、何をご覧
になられて、ご協力をいただいたのか、次の中
から選択してください(複数回答可)。

回答: 701 スキップ: 376



回答の選択肢	回答数
JILS-net通信	43.94% 308
メールマガジン	53.07% 372
JILSホームページ	2.00% 14
その他	8.27% 58
回答数: 701	

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会

JILS総合研究所

東京都港区海岸 1 丁目 1 5 番地 1 号 スズエベイディアム 3 階

Tel : 03-3436-3191

Fax : 03-3436-3190

URL <http://www.logistics.or.jp/>